arkray

自己検査用グルコース測定器

GLUCOCARD™

G Black

グルコカード™ Gブラック

GT-1830 取扱説明書

ご使用前は必ずこの取扱説明書を読み、主治医の指導にしたがってください。

1 はじめに

このたびは、グルコカード　Gブラックをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

●この取扱説明書には、グルコカード　Gブラックを使って血糖値を測定するための操作方法と注意点が書かれています。
●お使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しい操作で血糖値を測定してください。
●あわせて、自己検査用グルコースキット「Gセンサー*」と採血器具の添付文書および取扱説明書もお読みになり、注意事項をお守りください。
●この取扱説明書は、必要なときにすぐ取り出せる場所に保管してください。

EMC適合

本測定器は、EMC 適合規格JIS C1806-2-6:2012に適合しています。
特記事項：　エミッションの分類　　クラスB

＊体外診断用医薬品承認番号21400AMZ00483000

・化粧箱および取扱説明書のグルコカード　Gブラックのイラスト表示は簡略化してありますので、実際とは異なります。

©2013　アークレイ株式会社

表記記号について

この取扱説明書では、注意していただきたい事項に以下の表記記号をつけています。

警 告 記載事項を守らないと、使用者または周囲の人が命の危険にさらされることがあります。

注 意 記載事項を守らないと、使用者または周囲の人がけがをしたり、物的損傷を受けたり、正しい測定結果を得られなかったりすることがあります。

重要 正しい操作と測定のために、おぼえておいていただきたい情報です。測定器の故障につながる取り扱い、正しい測定結果を得られない原因、および機能の正しい使用方法について記載しています。

参考 知っておくと便利な情報が記載されています。

もくじ

はじめに

はじめに 1
表記記号について 2
もくじ 3
説明の流れ 5

使用上の注意

使用上の注意 7

準備

グルコカード　Gブラックとは 21
各部の名称 23
EASY・CUSTOM・FULLモードの設定 24
梱包品の確認 25
収納ケースの使いかた 26
血糖値の測定に必要なもの（別売品） 27

測定

血糖値の測定 31

便利な機能

便利な機能の一覧 49
記憶データを確認する 54
削除マークを記憶データにつける 55
操作説明を確認する(電源オフから) 56
操作説明を確認する(センサー挿入後) 57
測定タイミングを測定結果に付加する（測定直後） 59
低値/高値の原因情報を測定結果に付加する(測定直後) . 60
名前を表示する/カスタム画面を表示する 61
メニューの基本操作 62
記憶データを確認する 66
削除マークを記憶データにつける 67
記憶データの測定タイミングを修正・付加する 68
記憶データの低値/高値の原因情報を修正・付加する 70
低値の記憶データを確認する 72
高値の記憶データを確認する 75
目標範囲内の記憶データを確認する 78
平均値の集計データを確認する 81
測定値をグラフで確認する 83

日内の血糖値変動を確認する 87
食後経過時間を計測して記録する 90
食後経過測定の測定値をグラフで確認する 94
アラームを設定する 95
測定時間帯を設定する 100
低値の表示を設定する 104
高値の表示を設定する 107
画面の明るさ・ブザー音を設定する 110
日付と時刻を設定する 112
Bluetooth通信の設定をする 116
Bluetoothのデバイスを登録する 118
Bluetoothの電波法の認証を確認する 120
設定を初期化する・記憶データを消去する 121
操作説明を確認する（メニュー画面から） 123
Bluetoothでデータを手動で送信する 124

メンテナンス

電池を交換する 125
コントロール液を測定する 129

困ったときは

操作方法に困ったときは 141
画面に表示される記号・マーク 149
エラー表示の原因と対処方法 153

装置仕様 159
保証規定 161
索引 163

説明の流れ

この取扱説明書は、7つの章で構成されています。

グルコカード　Gブラックを正しくお使いいただくためには、すべてをお読みいただくことが大切ですが、「使用上の注意」「準備」「測定」の章は必ずお読みください。

製品の仕様、保証規定、索引は、この取扱説明書の最後に記載しています。ご参考にお読みください。

はじめに	この取扱説明書について説明しています。	P1〜6
使用上の注意	安全にお使いいただくための注意事項です。 ご使用前に必ずお読みください。	P7〜20
準備	グルコカード　Gブラックの説明および測定の準備について説明しています。必ずお読みください。	P21〜30
測定	血糖値の正しい測定方法について説明しています。 必ずお読みください。	P31〜48
便利な機能	過去の測定結果の呼び出しや各種設定など便利な機能についての説明です。	P49〜124
メンテナンス	電池交換やお手入れの仕方などについて説明しています。	P125〜140
困ったときは	思いどおりに操作できないときやエラーが発生したときにお読みください。	P141〜158

使用上の注意

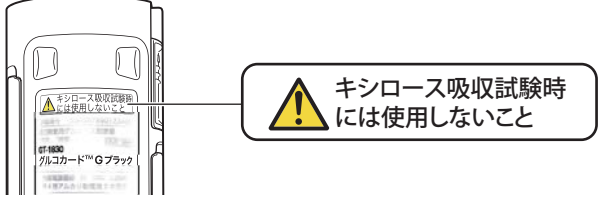
グルコカード　Gブラックを正しく、安全にお使いいただくために守っていただきたいことを以下に示します。

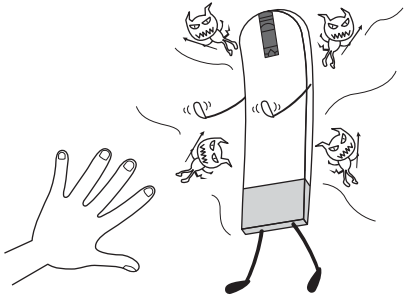
警告

実際の血糖値より高値を示すことがあるので、以下の患者には使用しないでください。〔その偽高値に基づいてインスリン等の血糖降下剤を投与することにより、昏睡等の重篤な低血糖症状があらわれるおそれがあります。〕

- **キシロース吸収試験を実施中の患者**
- **プラリドキシムヨウ化メチルを投与中の患者**

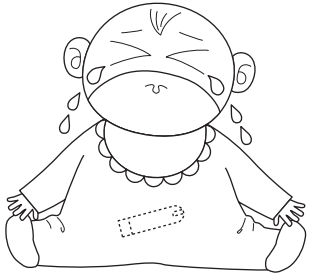
グルコカード　Gブラックは、原則として患者自身が自宅などで血糖を測定する場合に使用してください。





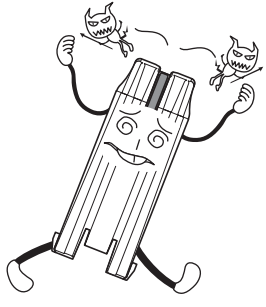
警告

血糖値を測定したあとのGセンサーには血液が付着しています。病原微生物などの感染を防ぐために、他の人に触れないように廃棄してください。



警告

Gセンサー、採血針、電池は、乳幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲みこんだときは、すぐに医師に相談してください。

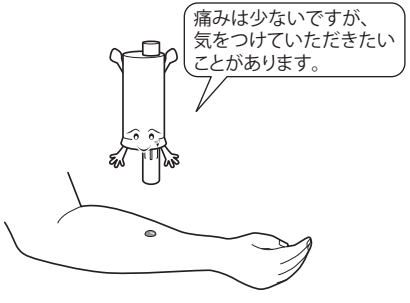


警告

感染の危険性がありますので、一度使った採血針は必ず廃棄してください（詳しくは採血針の添付文書をお読みください）。

警告

使用済みの採血針には血液が付着しています。病原微生物などの感染を防ぐために、他の人に触れないように廃棄してください（詳しくは採血針の添付文書をお読みください）。

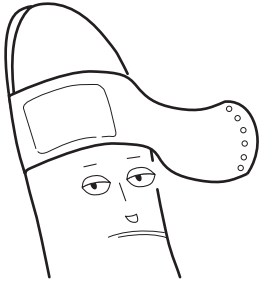


警告

前腕用採血器具をご使用いただくことで、前腕からの採血による測定ができますが、右のようなときには、指先から採血をしてください。

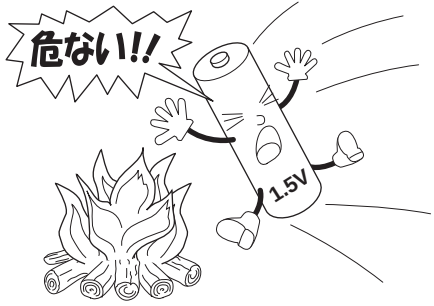
- 運動のあとなど、血糖値が急激に変化する可能性のあるとき
- 発汗/冷や汗、浮揚感、震えなど低血糖の症状があるとき
- 血糖低下状態で、すぐに低血糖かどうか知る必要があるとき
- かぜをひいたときなど、体調のすぐれないとき

重要 急激な血糖の変動が認められるとき、「前腕の血糖変動は指先よりも遅れることがある」という報告があります。



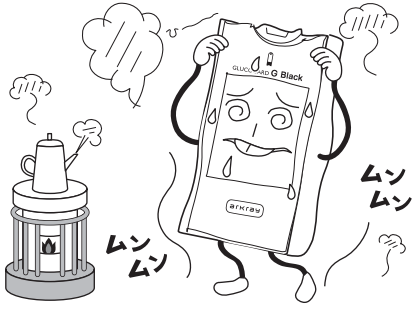
警告

感染の危険性がありますので、採血部位の消毒を必ず行ってください。また、採血後は必要に応じてばんそうこうなどで止血および保護してください。傷口が治りにくいときは、こまめに消毒してください。



警告

使用済みの電池を加熱したり、火に投げ入れたりしないでください。破裂してけがを負うおそれがあります。使用済みの電池は、お住まいの自治体の指示に従って廃棄してください。



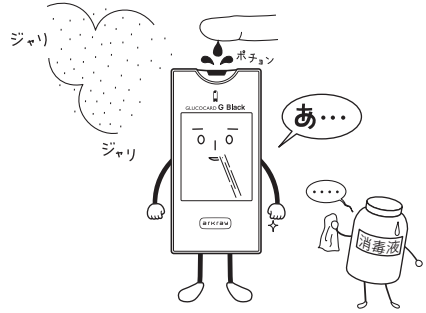
注意

グルコカード　Gブラックと Gセンサーを収納ケースから取り出し、温度10～40℃、湿度20～80%の環境に20分～30分以上なじませてから測定をしてください。

グルコカード　Gブラックを移動した場合は、温度差が大きいほどなじむまでの時間が必要です。なじんでいない場合、温度補正が正常に行われないため正しい測定結果が得られません。また、温度変化の激しいところや湿度の高いところでは、グルコカード　Gブラック内部に水滴が発生して正しい測定結果が得られません。グルコカード　Gブラックは、0～45℃の環境で保管してください。また、寒い季節で測定温度範囲外マークが表示されている場合、グルコカード　Gブラックだけを暖房機や手で直接暖めて測定しないでください。

注意

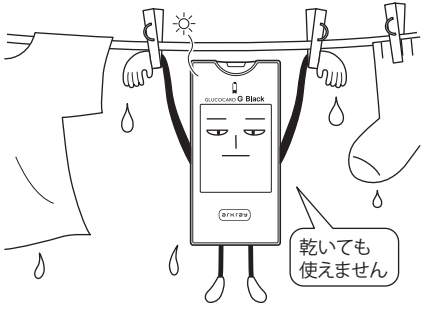
センサー挿入口の近くを持たないでください。このあたりには、測定誤差を小さくするための温度センサーが内蔵されています。手のぬくもりの影響で、正しい測定結果が得られません。



注意

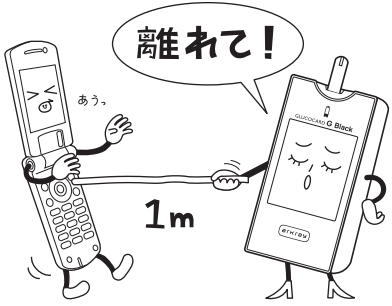
センサー挿入口に、血液や水分、ほこりなどを入れないでください。正しい測定結果が得られなかったり、作動しなくなる原因になります。

グルコカード　Gブラックが汚れたときは、水で湿らせたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。消毒液などを付けて強くふくと、表示部に傷がつくおそれがあります。



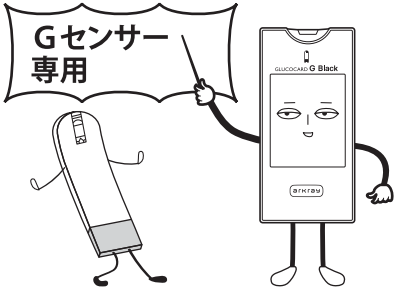
注意

水の中に落としたり、内部に水分が流入したグルコカード　Gブラックは、たとえ乾燥させたあとでも使用しないでください。正しい測定結果が得られなかったり、グルコカード　Gブラックが誤動作することがあります。



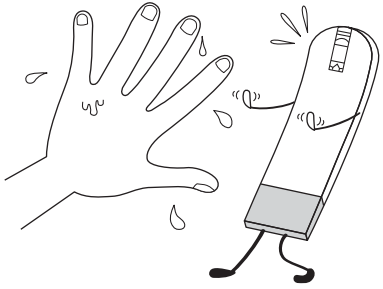
注意

テレビ、電子レンジ、携帯電話、低（高）周波治療器などの電磁波を発生する電子機器の近くでは、正しい測定結果が得られないことがあります。電子機器の電源を切るか、または電子機器から1 m以上離して測定してください。



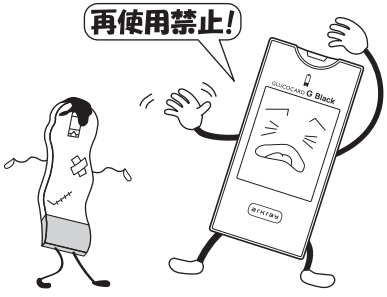
注意

測定には、必ずGセンサーをご使用ください。他のセンサーでは測定できません。また、センサー挿入口に他のセンサーを無理やり差し込まないでください。故障の原因となります。



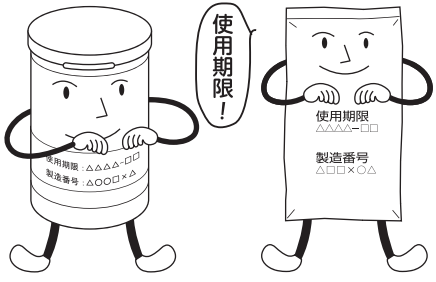
注意

Gセンサーを手で持ったままにしないでください。濡れたり汚れたりした手で持たないでください。正しい測定結果が得られません。



注意

一度、血液またはコントロール液を吸引させたGセンサーは使用しないでください。正しい測定結果が得られません。



注意

使用期限の過ぎたGセンサーは使用しないでください。正しい測定結果が得られません。

注意

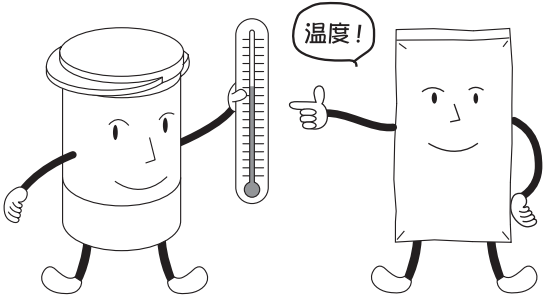
Gセンサーがボトル包装の場合、ボトルを開封したら、日付をラベルの開封日記入欄に書き込んでください。また、開封してから3ヶ月を経過したボトルのGセンサーは使用しないでください。正しい測定結果が得られません。

注意

ボトルまたはアルミパックから取り出したGセンサーは放置したり、別容器に小分け保存したりしないでください。正しい測定結果が得られません。

注意

ボトル包装の場合、ボトルからGセンサーを取り出したら、すぐにボトルのふたを閉めてください。ふたが開いたまま保存されていたGセンサーを使用すると、正しい測定結果が得られないことがあります。ふたが開いていた場合は、新しいボトルのGセンサーで測定してください。

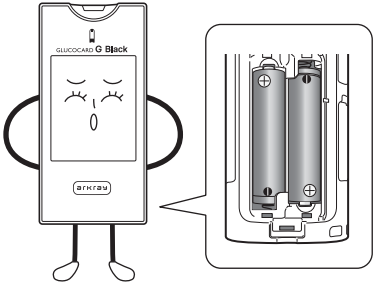


注意

夏場の自動車の車内は60℃近くになります。車内にGセンサーを放置しないでください。正しい測定結果が得られません。

注意

コントロール液のふたはしっかりと閉めて保存してください。ふたがゆるんでいると、正しい測定結果が得られません。



注意

電池は正しい向きに入れてください。作動しないだけでなく、時刻の設定がリセットされることがあります。

注意

グルコカード　Gブラックは、日本電波法に基づいて技術適合証明を受けておりますので、分解および改造することは法律で禁止されています。

注意

航空機内への持ち込みは、航空会社の指示に従ってください。本機からの電磁波などが計器類に影響を与えるおそれがあります。

グルコカード　Gブラックとは

グルコカード　Gブラックは、血糖値を自己管理するための自己検査用グルコース測定器です。
以下の特長があります。

●センサーの補正操作の必要がないため、すぐに測定をはじめることができます。
●わずか0.6 μLの血液で測定できます。
●血液を吸引すると自動的に測定がはじまり、5.5秒で測定結果が表示されます。
●カラーと日本語により、わかりやすく画面表示されます。
●操作説明をイラストとアニメーションで確認することができます。
●廃棄レバーにより、手で触れることなくGセンサーを廃棄できます。
●450回分の測定結果を記憶できるので、必要なときに過去の測定結果を確認することができます。

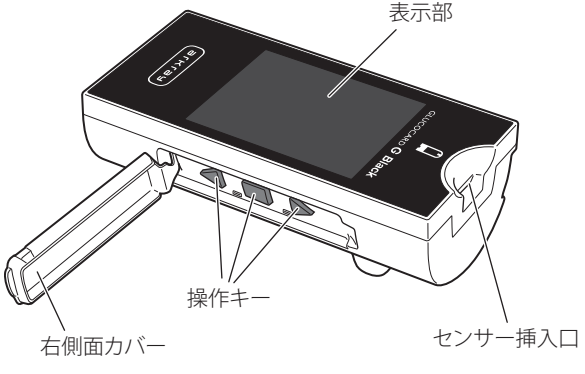
●使用目的に応じてモードを選択できます。
　EASYモード：　　血糖測定と過去の測定結果の確認のみ行えます。
　CUSTOMモード：あらかじめ設定された便利な機能を利用できます。
　FULLモード：　　すべての機能を利用できます。
●操作キーを使って、測定タイミングをつけることができます。
●食事開始時刻を記憶させ、食後経過時間を画面に表示することができます。
●低値・高値となった測定結果に、思い当たる原因を記録しておくことができます。
●過去の測定値を画面で確認することができます。その結果をグラフで表したり、測定タイミングごとの平均値を表示したりすることができます。また、特定の範囲の測定値を検索することもできます。
●アラーム時刻を設定することにより、測定時間をブザーでお知らせします。

そのほかにも便利な機能があります（49ページ参照）。

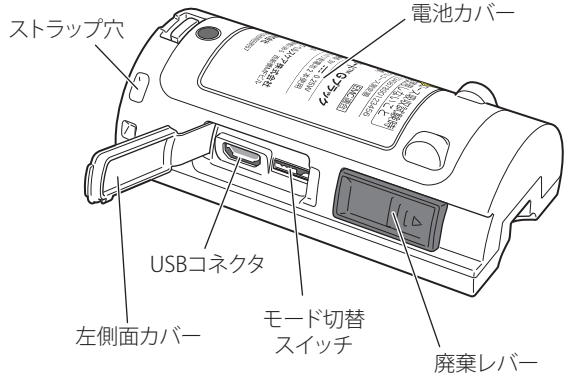
各部の名称

この取扱説明書では、グルコカード　Gブラックの各部を以下のように呼びます。

おもて面

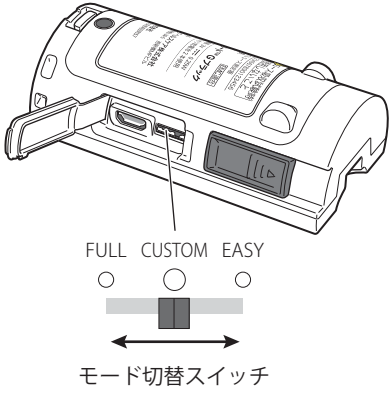


うら面



EASY・CUSTOM・FULLモードの設定

モードを切り替えることで、さまざまな便利な機能が利用できます。モード切替スイッチで切り替えることができます。



モード切替スイッチ

※芯が出ていないシャープペンシルの先など、固くて細いものを使ってください。

● EASY モード（出荷時の設定）
血糖測定と過去の測定結果の確認のみ行えます。

● CUSTOM モード
選択した機能だけが使用できます。

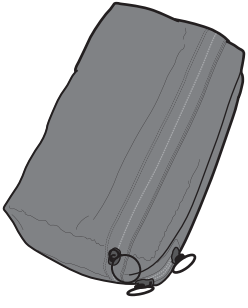
● FULL モード
過去の測定結果の確認のほか、測定や機器に関する設定など、すべての機能が使用できます。

参考 設定されたモードは、オープニング画面の左下に表示されます。

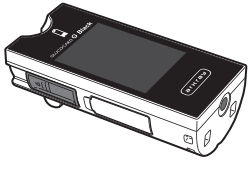
参考 各モードで使用できる機能については、49ページ「便利な機能の一覧」を参照してください。

梱包品の確認

グルコカード　Gブラックの箱の中には、以下のものが入っています。これらがすべてそろっていることを確認してください。



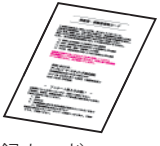
収納ケース



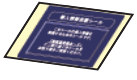
グルコカード　Gブラック

添付文書

取扱説明書



保証書・
保証書登録カード

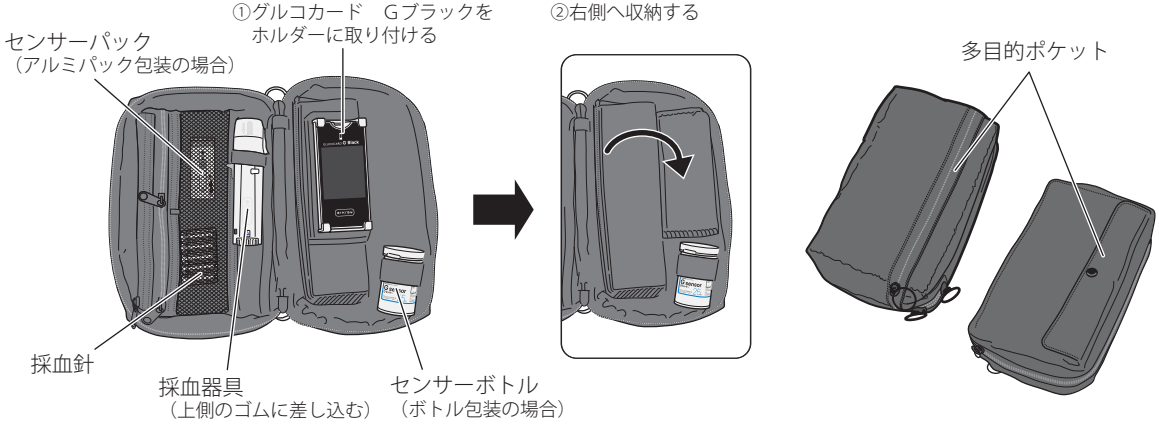


個人情報保護シール

参考　グルコカード　Gブラックには出荷時に電池が装填されており、日付と時刻も設定済みです。

収納ケースの使いかた

グルコカード　Gブラックを以下のように収納してから、ジッパーを閉めてください。



参考 濡れたものを長時間入れたままにしないでください。色移りのおそれがあります。

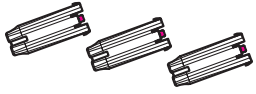
血糖値の測定に必要なもの（別売品）

血糖値を測定するには、グルコカード　Gブラックのほかに、以下のもの（別売品）を準備してください。

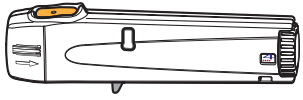
（ボトル包装）

（アルミパック包装）

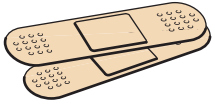
Gセンサー



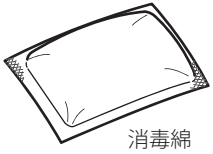
採血針



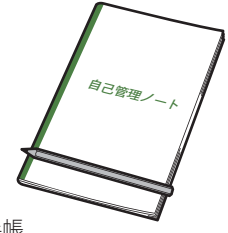
採血器具



ばんそうこう



消毒綿

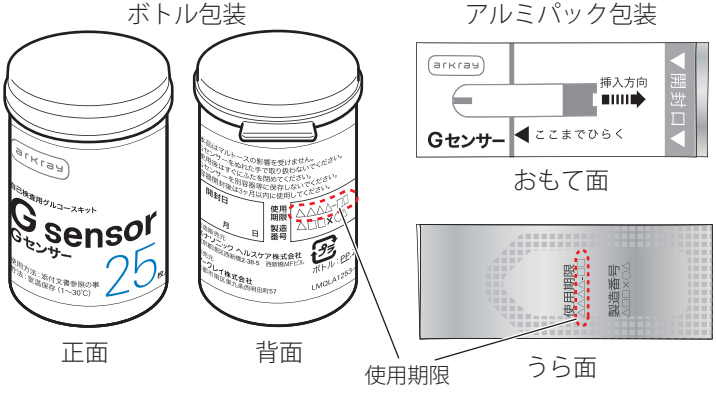


手帳
（自己管理ノートなど）

重要 **Gセンサーと採血針は、使用期限内のものをご用意ください。**

Gセンサー

グルコカード　Gブラックには、Gセンサーをご使用ください。

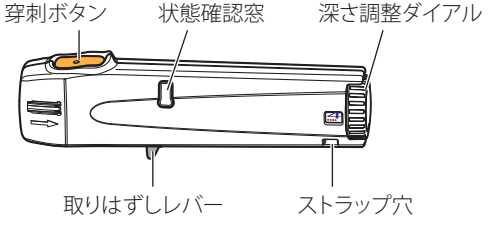


重要 **測定原理については、Gセンサーの添付文書をお読みください。**

採血器具

採血針

採血器具



重要 **詳しい取り扱い方法については、採血器具および採血針の添付文書および取扱説明書をお読みください。**

参考 弊社では各種の採血器具と、対応する各種採血針をご用意しております。

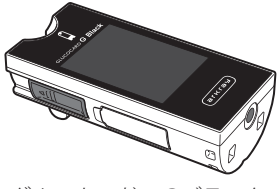
MEMO

血糖値の測定

EASY CUSTOM FULL

❶準備をする

指先から採血し、グルコカード　Gブラックで血糖値を測定する方法を説明します。はじめに、以下のものを準備してください。

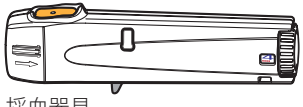


グルコカード　Gブラック

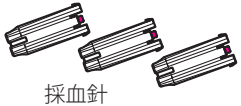
（ボトル包装）

（アルミパック包装）

Gセンサー

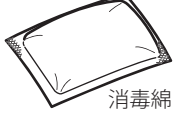


採血器具

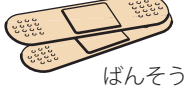


採血針

手帳
（自己管理
ノートなど）



消毒綿



ばんそうこう

重要 **採血器具と採血針の取り扱い方法については、それぞれの添付文書および取扱説明書をお読みください。**

2 手を洗う

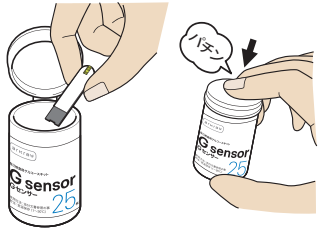
①必ず手を流水で洗います。

重要 **果物等の糖分を含む食品などに触れた後、そのまま指先から採血すると指先に付着した糖分が血液と混じり、高値を示すおそれがあります。**

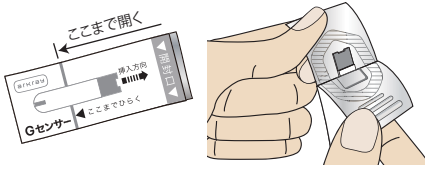
②十分に乾かします。

3 Gセンサーを取り出す

【ボトル包装の場合】



【アルミパック包装の場合】



【ボトル包装の場合】

①ボトルのふたを開け、Gセンサーを1枚取り出し、すぐにふたを閉めます。

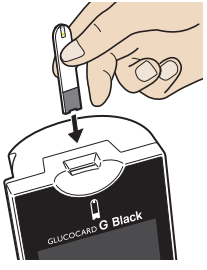
【アルミパック包装の場合】

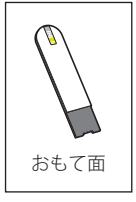
①アルミパックを開け、Gセンサーを取り出します。

重要 Gセンサーをボトルまたはアルミパックから出して長時間放置したり、手で持ったままにしないでください。また、濡れたり汚れたりした手で持たないでください。正しい測定結果が得られません。または、エラーが発生する可能性があります。

重要 ボトル包装の場合、ボトルからGセンサーを取り出したらすぐにふたを閉めてください。湿気に弱いため正しい測定結果が得られなくなります。または、エラーが発生する可能性があります。

4 Gセンサーを差し込む





①Gセンサーのおもて面を手前にして持ちます。

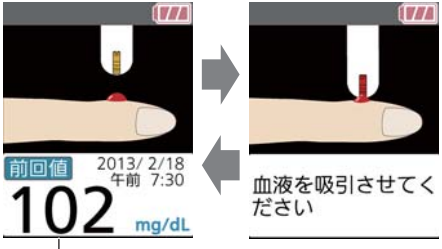
②センサー挿入口の奥までしっかりと差し込みます。

イラストは月ごとに変わります。

・「ピッ」と鳴って電源が入り、オープニング画面が表示されます。

重要 **この画面が表示されているあいだは、Gセンサーを血液に接触させないでください。エラーが表示されて測定できません。**

5 画面を確認する



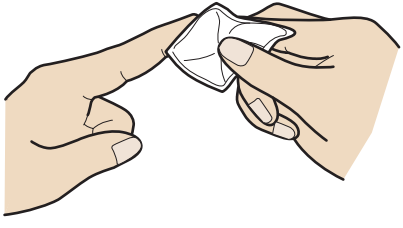
前回の測定結果
※測定結果がないときは「ーーー」です。

①左図の画面が交互に表示されるのを確認します。

この後、5分以内に手順 8 まで進み、血液を吸引させてください。

参考 2分を過ぎると画面が暗くなり、5分を過ぎると表示が消えます。

6 消毒する



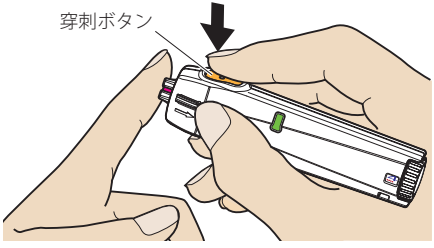
①採血する指先を消毒綿で消毒し、十分に乾燥させます。

警告

感染の危険性がありますので、採血部位を必ず消毒してください。

重要 **採血部位を十分に乾燥させてください。乾燥が不十分な場合は、正しい測定結果が得られません。**

7 採血をする



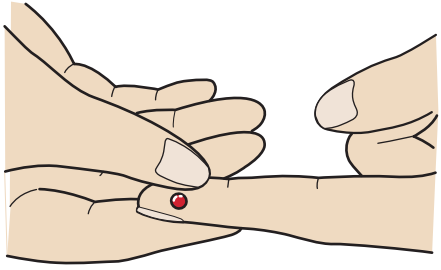
①採血器具に採血針をセットします。
・採血器具の取扱説明書 参照

②採血針の先端を指にあてて刺し、小さな傷をつくります。採血針は一瞬だけ皮膚を刺し、自動的にもどります。

警告

感染の危険がありますので、一度使用した採血針は必ず廃棄してください。

重要 **以下のような末梢血流が減少した患者の指先から採血した場合は、低値を示すことがあります。**
・脱水状態　・ショック状態　・末梢循環障害



③刺し傷をつけたまわりを軽く押し、ゴマ粒大よりも多めの血液を出します。

〈血液量の目安〉
直径1.5 mm以上

参考 血液の出が悪いときは、あらかじめ採血する部位を温めたり、マッサージをしたりして、血行を良くしてから採血してください。

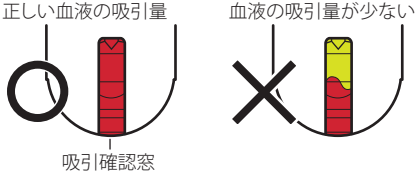
8 血液に接触させる

①手順 5 の画面が表示されていることを確認します。

参考 電源が切れている場合は、Gセンサーを抜き取り、もう一度、差し込んでください。

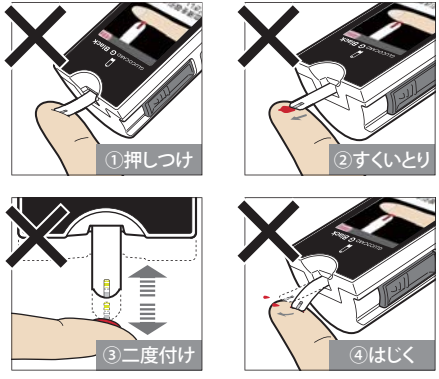
②Gセンサーの先端を下に向けて、グルコカード　Gブラックを持ちます。

③Gセンサーの先端に血液を接触させます。



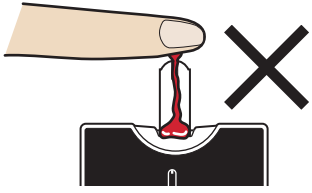
④吸引確認窓の全面が赤くなるまで十分に血液を吸引させます。

⑤「ピッ」と鳴ったら、指をはなします。
・測定が開始します。

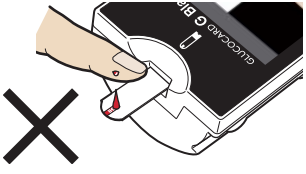


重要 血液の吸引が適切でないと正しい測定結果が得られないことがあります。

①Gセンサーを皮膚に押しつけないでください。
②Gセンサーで血液をすくい取らないでください。
③一度血液からはなしたGセンサーに、血液を二度付けしないでください。
④Gセンサーを皮膚にひっかけて、血液を飛び散らさないでください。

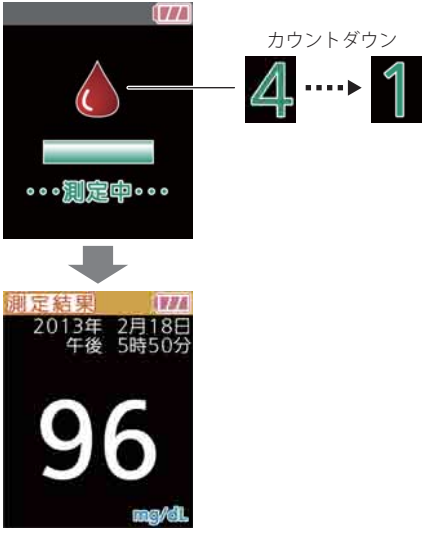


重要 Gセンサーの先端を上向きにした状態で血液に接触させないでください。センサー挿入口から内部に血液が入り、故障の原因になります。



重要 Gセンサーの吸引確認窓の上から血液を接触させても測定できません。必ず先端を血液に接触させてください。

9 測定結果を確認する



・カウントダウン「4」▪▪▪▪▶「1」が表示されます。

重要 **測定結果が表示されるまでGセンサーに振動を与えないでください。また、途中でGセンサーを抜かないでください。**

①測定結果を確認します。
・測定結果はグルコカード　Gブラックに記憶されます。

参考 測定結果が青色・赤色で表示されたとき
青色：目標値より低い（初期設定：70 mg/dL以下）
赤色：目標値より高い（初期設定：180 mg/dL以上）

重要 **青色・赤色で表示されたときも、必ず数値を確認してください。**

▲▼■のいずれかを押すとメッセージが解除されます。

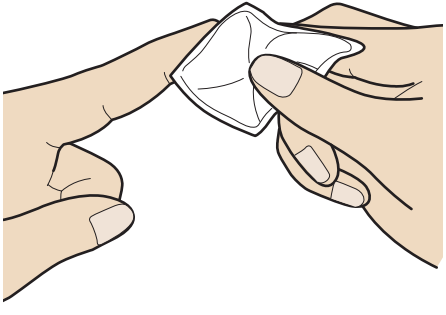
重要 **「Lo」または「Hi」が表示されたら**

測定結果が10 mg/dLより低いときは「Lo」、600 mg/dLより高いときは「Hi」と表示されます。

1) 新しいGセンサーを使って測定をやりなおします。

2) 同じメッセージが表示されるときは、症状がいちじるしく悪化しているおそれがあります。すぐにかかりつけの医師に相談してください。

⑩採血部位を消毒する

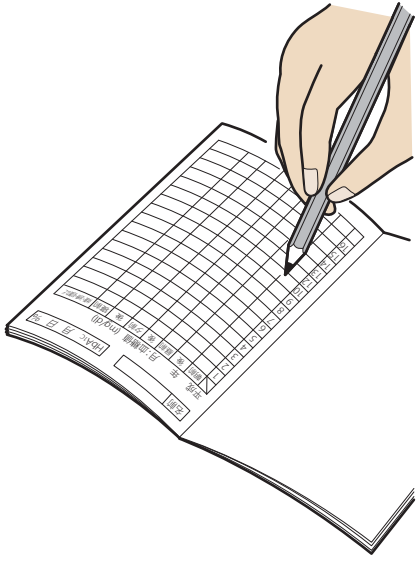


①採血した部位を、消毒綿などで消毒します。

警告

感染の危険があるため、採血部位は必ず消毒してください。また、必要に応じてばんそうこうなどで止血および保護をしてください。傷口が治りにくいときは、こまめに消毒してください。

11 測定結果を記録する



①測定結果を手帳（自己管理ノートなど）に記録します。

重要 **測定結果をかかりつけの医師に報告し、今後の治療方針について相談してください。**

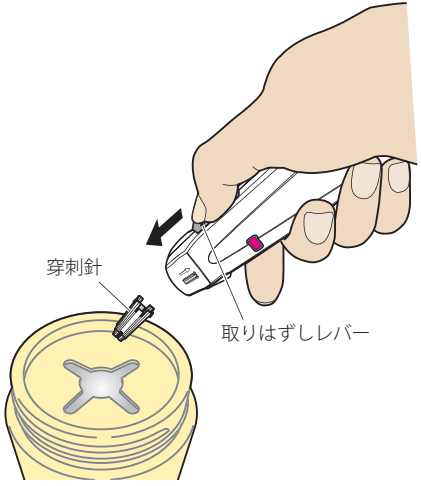
12 Gセンサーを捨てる

①廃棄レバーをスライドさせ、Gセンサーをはずします。
・電源が切れます。

警告

病原微生物などの感染を防ぐため、血液が付着したGセンサーは、他の人に触れないように廃棄してください。

⓭採血針を捨てる



①採血器具から採血針をはずします。
　かかりつけの医師の指導にしたがって、採血針を廃棄します。

警告

病原微生物などの感染を防ぐため、一度使用した採血針は必ず廃棄してください。また他の人に触れないよう注意して廃棄してください。

重要 **採血器具と採血針の取り扱い方法については、それぞれの添付文書および取扱説明書をお読みください。**

MEMO

便利な機能の一覧

機能				参照ページ		
				EASY	CUSTOM	FULL
削除マークを測定結果につけます。				P55	P67	P67
測定タイミングを測定結果に付加します。				-	-	P59
低値/高値の原因を測定結果に付加します。				-	-	P60
名前を表示する/カスタム画面を表示します。				P61	P61	P61
メニュー機能	メモリ読み出し	記憶データ		P54※	P66	P66
		検索	低値検索	-	P72	P72
			高値検索	-	P75	P75
			範囲検索	-	P78	P78
		平均値		-	P81	P81
		グラフ表示		-	P83	P83
		日内データ		-	P87	P87

※EASYモードではメニュー機能は使用しません。

機能				参照ページ		
				EASY	CUSTOM	FULL
メニュー機能	食後経過測定	測定	食事をはじめてから測定までの時間を測定結果に記録します。	-	P90	P90
		グラフ	食後経過測定の結果をグラフで表示します。	-	P94	P94
	個人設定	アラーム設定	アラームを設定します（初期設定：OFF）。	-	-	P95
		測定時間帯設定	測定した測定タイミングを付加する機能をON/OFFします（初期設定：OFF）。 測定タイミングの測定時間帯を設定します。	-	-	P100
		低値設定	目標値の下限値を設定します（初期設定：70 mg/dL以下）。	-	-	P104
			低値を青色で表示する機能をON/OFFします（初期設定：ON）。	-	-	P104
			低値の原因入力を付加する機能をON/OFFします（初期設定：OFF）。	-	-	P104

機　能				参照ページ		
				EASY	CUSTOM	FULL
メニュー機能		低値設定	グラフに目標値の下限値を青色の実線で表示する機能をON/OFFします（初期設定：ON）。	-	-	P104
	個人設定	高値設定	目標値の上限値を設定します（初期設定：180 mg/dL以上）。	-	-	P107
			高値を赤色で表示する機能をON/OFFします（初期設定：ON）。	-	-	P107
			高値の原因入力を付加する機能をON/OFFします（初期設定：OFF）。	-	-	P107
			グラフに目標値の上限を赤色の実線で表示する機能をON/OFFします（初期設定：ON）。	-	-	P107

機能					参照ページ		
					EASY	CUSTOM	FULL
メニュー機能	機器設定	画面・ブザー設定		画面の明るさとブザー音の設定をします（初期設定：画面 普通、ブザー 高音）。	-	-	P110
		日時設定		内蔵時計の日付と時刻を設定します（初期設定：24時間表示）。	-	P112	P112
		Bluetooth設定	ON・OFF設定	Bluetooth通信を使用するかしないかを設定をします（初期設定：通信 OFF、測定後自動送信 OFF）。	-	-	P116
			デバイスリスト	Bluetoothで通信するデバイスを登録します。	-	-	P118
			認証表示	Bluetoothの認証を表示します。	-	-	P120
		初期化・消去	名前表示	オープニング画面から使用者の名前を削除します。	-	-	P121
			カスタム画面	カスタム画面を削除します。	-	-	P121

機　能					参照ページ		
					EASY	CUSTOM	FULL
メニュー機能	機器設定	初期化・消去	全測定データ	記憶データをすべて消去します。	-	-	P121
			全設定	設定をすべて初期化します。	-	-	P121
			全て	記憶データをすべて消去し、設定を初期化します。	-	-	P121
	操作説明			血糖値測定の操作説明を表示します。	P56※ P57※	P56※ P57※ P123	P56※ P57※ P123
	Bluetooth通信			Bluetooth通信でデータを送信します。	-	-	P124

※メニュー機能を使用しない方法です。

記憶データを確認する EASY

血糖値とコントロール液の測定結果をあわせて最大450件分が記憶されます。450件を超えると、古い記憶データから消去されます。

(例)

①■キーを押します。
・しばらくすると、最新の記憶データが表示されます。

②ひとつ古い記憶データを表示するには、▼キーを押します。
・最後に［END］が表示されます。

参考 ▲：ひとつ前の記憶データにもどります。

参考 終了するには、■キーを押し、［電源を切る］を選択します。

削除マークを記憶データにつける EASY

明らかに正しくないと思われる測定値に削除マークをつけます。削除マークをつけても記憶データには残ります。

①目的の記憶データを表示します。
54ページ「記憶データを確認する［EASY］」参照

②メニューを表示します。
・キー操作 ■

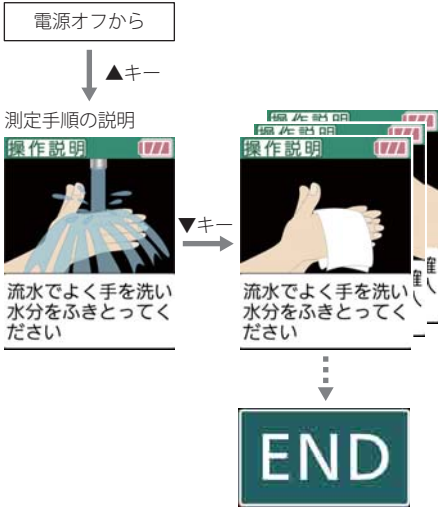
③［削除マーク］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④［つける］を選択します。
・キー操作 ▲ ➔ ■
・削除マークが表示されます。

参考 終了するには、■キーを押し、［電源を切る］を選択します。

操作説明を確認する(電源オフから) EASY CUSTOM FULL

血糖値測定の操作説明を画面で確認することができます。



①電源オフのときに、▲キーを押します。
・操作説明の画面が表示されます。

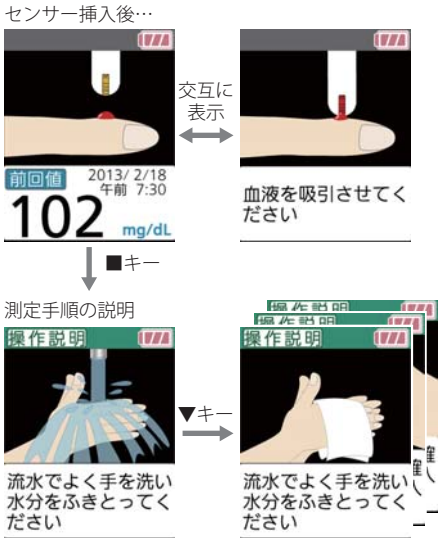
②次の画面へすすむには、▼キーを押します。
・［END］が表示されたら、説明は終わりです。

参考 ▲：前の画面へ
■：操作説明を終了

参考 Gセンサーを差し込むと、操作説明が終了し、測定ができる状態になります。

操作説明を確認する(センサー挿入後) EASY CUSTOM FULL

血糖値測定の操作説明を画面で確認することができます。



①Gセンサーを挿入した後、左図の画面が交互に表示されていることを確認します。

②■キーを押します。
・操作説明の画面が表示されます。

③次の画面へすすむには、▼キーを押します。

・［END］が表示されたら、説明は終わりです。

参考 ▲：前の画面へ
■：操作説明を終了

参考 Gセンサーに血液を接触させると、操作説明が終了し、測定が開始されます。

測定タイミングを測定結果に付加する（測定直後） FULL

血糖値の測定後に表示される測定結果に、測定タイミングの情報を記録することができます。

※［個人設定］→［測定時間帯設定］の［入力］を［手動］に設定しておいてください。［自動］に設定した場合、測定結果に測定タイミングが自動的に追加されます。

①測定後に測定結果が表示されたら、■キーを押します。
・メニューが表示されます。

②［測定タイミング］を選択します。
・[キー操作] ■

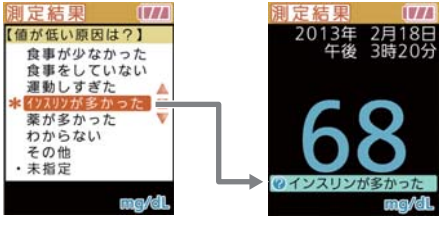
③測定したタイミングを選択します。
・[キー操作] ▼・▲(選択) ➔ ■
・測定タイミングの情報が測定結果に付加されます。

[参考] ［未指定］を選択するとタイミングは設定されません。

低値/高値の原因情報を測定結果に付加する(測定直後) FULL

測定後に表示された測定結果が低値（初期設定：70 mg/dL以下）または高値（初期設定：180 mg/dL以上）の場合、思い当たる原因を記録できます。

低値



高値

※［個人設定］→［低値設定］/［高値設定］の［原因入力］を［ON］に設定しておいてください。

①測定後に測定結果が表示されたら、■キーを押します。
・メニューが表示されます。

②［低値(高値)原因入力］を選択します。
・キー操作 ▼➔■

③思い当たる原因を選択します。
・キー操作 ▼・▲(選択)➔■
・原因情報が測定結果に付加されます。

参考 ［未指定］を選択すると、原因の情報は設定されません。

参考 原因情報は1項目のみ選択できます。

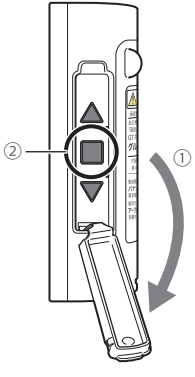
名前を表示する/カスタム画面を表示する EASY CUSTOM FULL

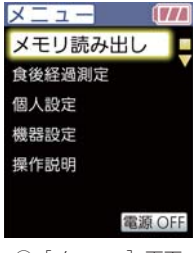
電源を入れた直後のオープニング画面に、使用者の名前を表示することができます。またオープニング画面後にカスタム画面としてお好みの画像やメッセージを表示することができます。
名前およびカスタム画面の設定は、専用のソフトウェアで行います。詳しくは販売元へお問い合わせいただくか、下記のURLをご覧ください。

参考
弊社WEBサイト：http://www.arkray.co.jp

メニューの基本操作 CUSTOM FULL

［メニュー］画面を表示する





③［メニュー］画面

①右側面カバーを開けます。

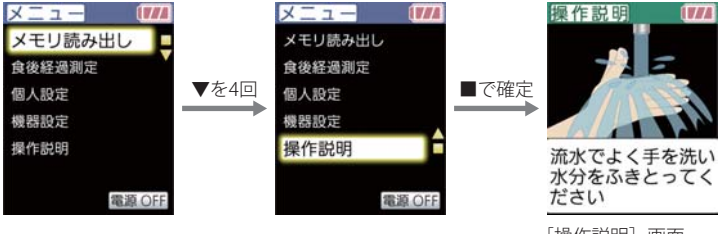
②■キーを押します。
・電源が入ります。

③しばらくすると、［メニュー］画面が表示されます。

［メニュー］から機能を選択する

操作キー	説明
▼・▲	機能名を選択します。
■	確定します。

例）[操作説明]機能を選択する



［操作説明］画面

メニュー機能の説明（66～124ページ）では、このように表記しています。

キー操作 ▼ → ■

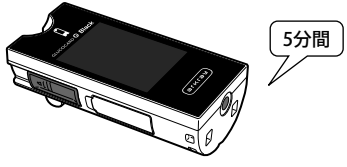
項目の設定をする

操作キー	説明
▼・▲	次または前の項目を選択します。数値や設定値を変更します。押し続けると、高速で数値を変更します。
■	確定します。

例）「10分」を「25分」に変更する

メニュー機能の説明（66～124ページ）では、このように表記しています。
キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■

電源を切る



そのまま置いておく

5分間、操作しないと自動で電源が切れます。

参考 2分経過した時点で画面が暗くなり、省電力モードになります。

［メニュー］画面

［メニュー］画面から

▼キーで［電源OFF］を選択し、■キーを押します。

参考 他の画面が表示されているとき
［戻る］を選択して［メニュー］画面に戻ってから、上記の操作をしてください。

参考 ■キーを5秒間押し続けることで、どの画面からでも電源を切ることができます。

記憶データを確認する CUSTOM FULL

血糖値とコントロール液の測定結果、食事開始時刻の記憶データをあわせて最大450件分が記憶されます（450件を超えた場合は、古い記憶データから消去されます）。

(例)

①［メニュー］画面を表示します。

・キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［記憶データ］を選択します。

・キー操作 ■ ➔ ■

・最新の記憶データが表示されます。

③ひとつ古い記憶データを表示するには、▼キーを押します。

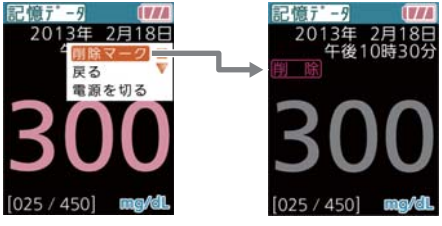
・最後に［END］が表示されます。

参考 ▲：ひとつ前の記憶データにもどる。

参考 終了するには
■キーを押し、［電源を切る］または［メニューへ戻る］を選択します。

削除マークを記憶データにつける CUSTOM FULL

明らかに正しくないと思われる測定値に削除マークをつけ、平均値の計算およびグラフから省くことができます。削除マークをつけても記憶データには残ります。



①目的の記憶データを表示します。
66ページ「記憶データを確認する［CUSTOM］［FULL］」参照

②メニューを表示します。
・キー操作 ■

③［削除マーク］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④［つける］を選択します。
・キー操作 ▲ ➔ ■
・削除マークが表示されます。

参考 終了するには、■キーを押し、［電源を切る］を選択します。

記憶データの測定タイミングを修正・付加する FULL

記憶データに記録されている測定タイミングを修正することができます。

※測定タイミングの情報がない記憶データに測定タイミングを付加することもできます。その場合は［個人設定］→［測定時間帯設定］の［入力］を［自動］または［手動］に設定しておいてください。

例）「夕食前」→「夕食後」に修正

①目的の記憶データを表示します。

66ページ「記憶データを確認する［CUSTOM］［FULL］」参照

②メニューを表示します。

・キー操作 ■

③［測定タイミング］を選択します。

・キー操作 ■

④測定タイミングを選択します。

・キー操作 ▼・▲(選択) ➔ ■

・修正または付加後の測定タイミングが表示されます。

記憶データの低値/高値の原因情報を修正・付加する FULL

記憶データに記録されている低値および高値の原因情報を修正することができます。

※原因情報のない記憶データに原因情報を付加することもできます。その場合は［個人設定］→［低値設定］/［高値設定］の［原因入力］を［ON］に設定しておいてください。

例）高値の場合

①目的の記憶データを表示します。

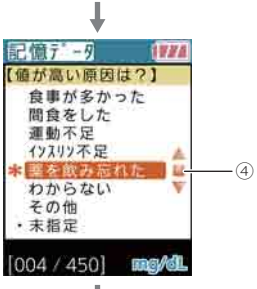
66ページ「記憶データを確認する［CUSTOM］［FULL］」参照

②メニューを表示します。

・キー操作 ■

③［低値原因入力］または［高値原因入力］を選択します。

・キー操作 ▼・▲(選択) ➔ ■



④思い当たる原因を選択します。

・キー操作 ▼➔■

・修正または付加後の原因情報が表示されます。

参考 ［未指定］を選択すると、もとの原因情報が消去されます。

低値の記憶データを確認する CUSTOM FULL

血糖値が特定の値以下の記憶データを表示します。

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［検索］を選択します。
・キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［低値検索］を選択します。
・キー操作 ■

④低値の上限値を設定します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(数値設定) ➔ ■

参考 初期設定では70 mg/dLが低値の上限値に設定されています。

⑤測定日の期間を設定します。

・キー操作 ▲ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■

・今日を含めて7日間、14日間、30日間、90日間、または全データ

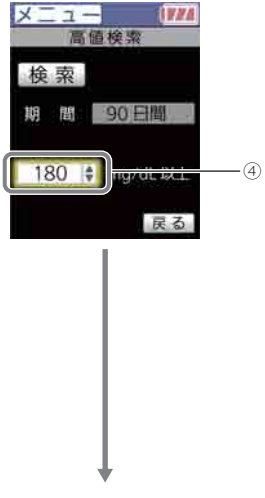
⑥検索します。

・キー操作 ▲→■

・該当する記憶データが表示されます。

高値の記憶データを確認する CUSTOM FULL

血糖値が特定の値以上の記憶データを表示できます。



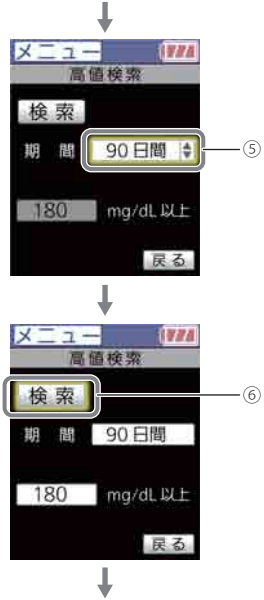
①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［検索］を選択します。
・キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［高値検索］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④高値の下限値を設定します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(数値設定) ➔ ■

参考 初期設定では180 mg/dLが高値の下限値に設定されています。



⑤測定日の期間を設定します。

・キー操作 ▲➔■➔▼・▲(選択)➔■

・今日を含めて7日間、14日間、30日間、90日間、または全データ

⑥検索します。

・キー操作 ▲➔■

・該当する記憶データが表示されます。

高値の
記憶データ

▼・▲キーで
スクロール

・該当する記憶データが表示されます。

目標範囲内の記憶データを確認する CUSTOM FULL

血糖値が指定範囲内にある記憶データを表示できます。

①[メニュー]画面を表示します。
・キー操作 ■

②[メモリ読み出し]→[検索]を選択します。
・キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③[範囲検索]を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④血糖値範囲の下限値を設定します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(数値設定) ➔ ■

参考 初期設定では71 mg/dLが下限値に設定されています。

⑤血糖値範囲の上限値を設定します。

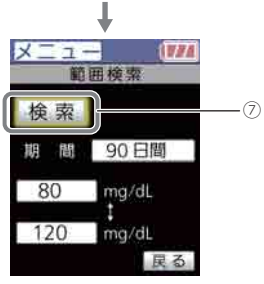
・キー操作 ▼➔■➔▼・▲(数値設定)➔■

参考 初期設定では179 mg/dLが上限値に設定されています。

⑥測定日の期間を設定します。

・キー操作 ▲➔■➔▼・▲(選択)➔■

・今日を含めて7日間、14日間、30日間、90日間、または全データ



⑦検索します。

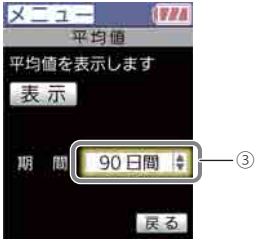
・キー操作 ▲ ➔ ■

▼・▲キーでスクロール

・該当する記憶データが表示されます。

平均値の集計データを確認する CUSTOM FULL

記憶データの測定タイミング別の平均値を表示できます。



①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［平均値］を選択します。
・キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［期間］で集計期間を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■
・7日間、14日間、30日間、90日間、全データ

④[表示] を選択します。

・キー操作 ▲ ➔ ■

測定タイミングごとの平均値

▼・▲キーでスクロール

・測定タイミング別の平均値が表示されます。

測定値をグラフで確認する CUSTOM FULL

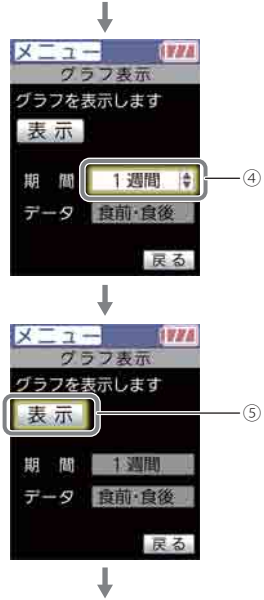
血糖値の記憶データをグラフで表示できます。

参考 以下の記憶データはグラフに含まれません。
- 削除マークつきの測定値
- 測定温度範囲外マークつきの測定値
- コントロールの測定値
- 食後経過測定の測定値

①［メニュー］画面を表示します。
- キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［グラフ表示］を選択します。
- キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［データ］で「食前・食後」または「全データ」を選択します。
- キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■



④［期間］で今日までの集計期間を選択します。

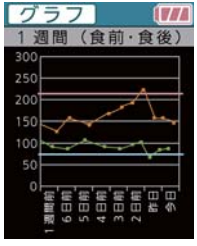
・キー操作 ▲ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■

・1週間、1か月

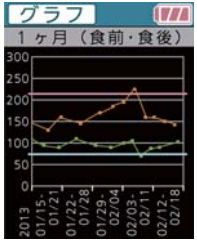
⑤［表示］を選択します。

・キー操作 ▲ ➔ ■

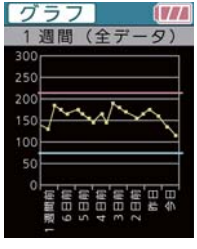
1週間（食前・食後）



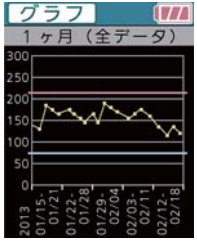
1か月（食前・食後）



1週間（全データ）



1か月（全データ）

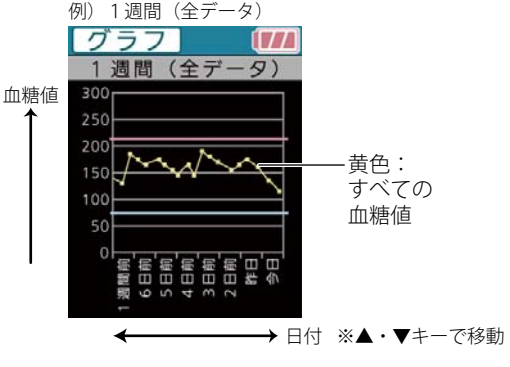


・平均値のグラフが表示されます。

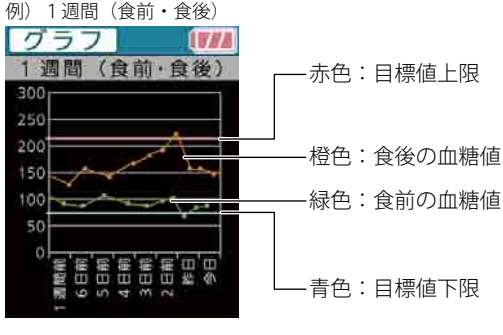
参考 グラフ表示を終了するには、■キーを押します。

■グラフの見方

例）1週間（全データ）



例）1週間（食前・食後）



参考 目標値の上限と下限の設定については、104ページ「低値の表示を設定する」および107ページ「高値の表示を設定する」をご参照ください。

参考 グラフ表示での測定値の上限は300 mg/dLです。300 mg/dLを超える測定値は300 mg/dLの位置に赤色の点で表示されます。

日内の血糖値変動を確認する CUSTOM FULL

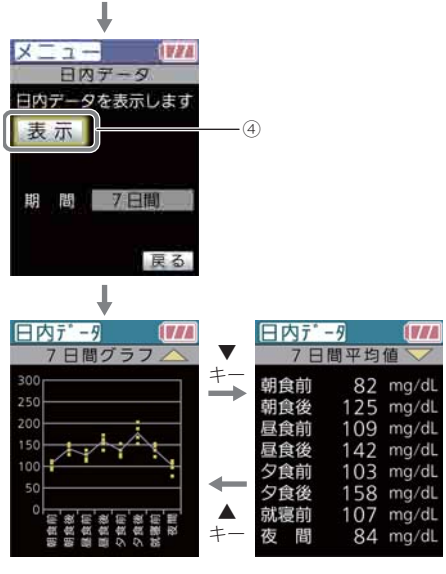
測定タイミングごとの血糖値の平均値をグラフと一覧で表示します。1日の血糖値の変動を確認できます。

参考 以下の記憶データはグラフおよび平均値の一覧に含まれません。
- 削除マークつきの測定値
- 測定温度範囲外マークつきの測定値
- コントロールの測定値
- 食後経過測定の測定値

①［メニュー］画面を表示します。
- キー操作 ■

②［メモリ読み出し］→［日内データ］を選択します。
- キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［期間］で今日までの集計期間を選択します。
- キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■
- 7日間、14日間、30日間、90日間、全データ



④[表示] を選択します。

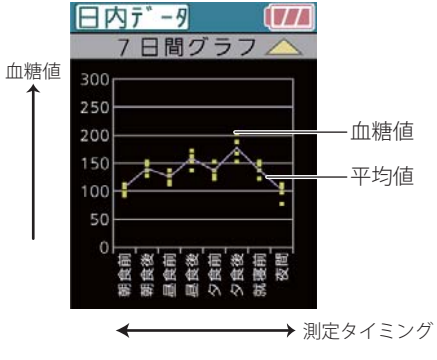
・キー操作 ▲ ➔ ■

・各測定タイミングの平均値がグラフで表示されます。
・▼・▲キーで、グラフと一覧が切り替わります。

参考 グラフと一覧の表示を終了するには、■キーを押します。

■グラフの見方

例）1週間（全データ）

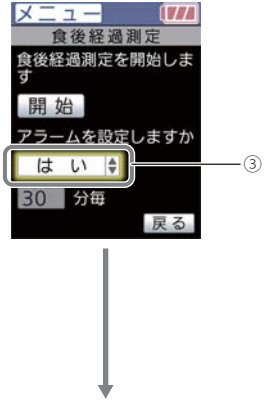


参考 グラフ表示での測定値の上限は300 mg/dLです。300 mg/dLを超える測定値は300 mg/dLの位置に赤色の点で表示されます。

食後経過時間を計測して記録する CUSTOM FULL

食事を始めてから血糖値を測定するまでの時間（食後経過時間※）を測定結果に記録することができます。食後から30分または60分ごとに、血糖値を測定するようアラームでお知らせすることができます。
※食事を１口食べ始めた時点から「食後」とみなされます。

アラームを設定する

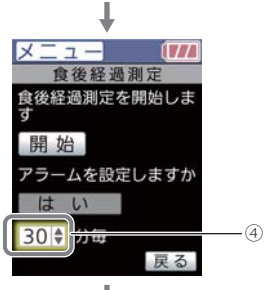


①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

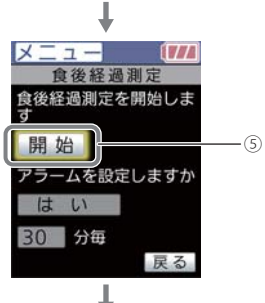
②［食後経過測定］→［測定］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

③アラームを使用するときは［はい］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■

参考 この機能を使用しないときは［いいえ］を選択します。



④アラームを鳴らす間隔を設定します。
・キー操作 ▼➔■➔▼・▲(選択)➔■
・30分毎、60分毎



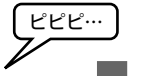
⑤[開始] を選択します。
・キー操作 ▲➔■
・「食事を開始してください。」と表示され、電源が切れます。

⑥食事を始めてください。

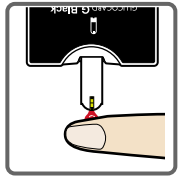
参考 食後経過時間の計測中は、アイコンが表示されます。

アラームの設定時間が経過すると

設定時間が経過すると



血糖値測定



測定結果

食後経過時間

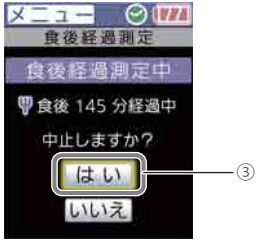
・「ピピピ…」とアラームが鳴ります。

①■キーを押します。
・アラームが止まり、電源が切れます。

②血糖値を測定します。
・測定結果に食後経過時間が付加されます。

参考 3時間15分を過ぎると食後経過時間の計測が終わり、アラームは鳴らなくなります。

食後経過時間の計測を中止するには



①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［食後経過測定］→［測定］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

③［はい］を選択します。
・キー操作 ▲ ➔ ■

参考 この画面で食後経過時間を確認することができます。

食後経過測定の測定値をグラフで確認する CUSTOM FULL

食後経過測定の測定値をグラフで表示することができます。

①［メニュー］画面を表示します。

・キー操作 ■

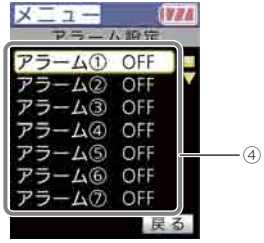
②［食後経過測定］→［グラフ］を選択します。

・キー操作 ▼➔■➔▼➔■

参考 グラフ表示での測定値の上限は300 mg/dLです。300 mg/dLを超える測定値は300 mg/dLの位置に赤色の点で表示されます。

アラームを設定する FULL

血糖値を測定する時間などにアラームが鳴るように設定できます。アラームは7つまで設定できます。

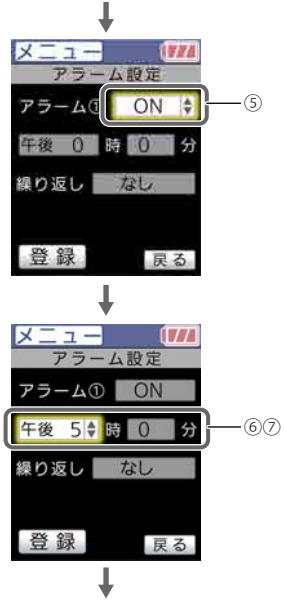


①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［個人設定］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

③［アラーム設定］を選択します。
・キー操作 ■

④アラームの番号を選択します。
・キー操作 ▼・▲(番号選択) ➔ ■
・［アラーム①］～［アラーム⑦］



⑤[ON] に設定します。

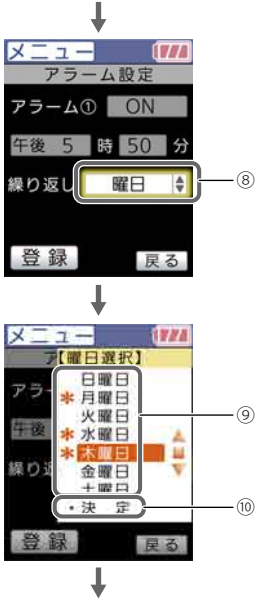
・キー操作 ■ ➔ ▼ ➔ ■

⑥アラームの時間を設定します。

・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■

⑦分を設定します。

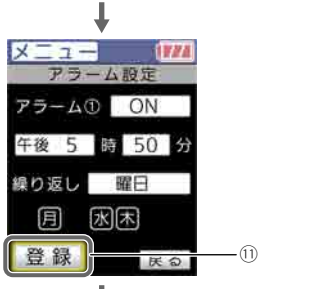
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■



⑧繰り返しの設定をします。
- キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■
- ［なし］：1回だけ。手順⑪へ
  ［毎日］：設定した時間に毎日。手順⑪へ
  ［曜日］：選択した曜日だけ。手順⑨へ

⑨曜日を選択します。
- キー操作 ▼・▲(選択) ➔ ■
- アラームを鳴らす曜日をすべて選択します。
- 選択された曜日に「＊」がつきます。
- 選択を取り消すには、もう一度■キーを押します。

⑩［決定］を選択します。
- キー操作 ▼・▲(選択) ➔ ■



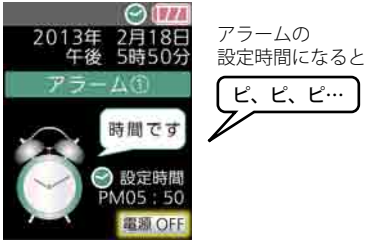
⑪登録します。

・キー操作 ▼➔■

・「アラーム(番号) 設定しました。」と表示されます。

⑫他の時間にもアラームを設定するには、手順④から繰り返します。

参考 アラームを設定すると、アイコンが表示されます。



●設定時間になると
「ピ、ピ、ピ…」とアラームが鳴ります。

●アラームを止めるには
▲・■・▼キーのいずれかを押します。

参考 食後経過時間の計測中は、アラーム機能は働きません。

測定時間帯を設定する FULL

血糖値を測定したタイミングを測定結果に記録することができます。
また、生活習慣にあわせて各測定タイミングの時間帯を変更することができます。

●測定時間帯の初期設定

測定タイミング	朝食前	朝食後	昼食前	昼食後	夕食前	夕食後	就寝前	夜間
測定時間帯	05:00～	08:00～	11:00～	13:00～	16:00～	18:00～	22:00～	01:00～

参考 測定タイミングの補正
夜間以外の測定でタイミングが記録されると、10分後から次の測定時間帯になります。なお、同じ測定タイミングで複数回測定した場合は、最後の測定の10分後から次の測定時間帯になります。

例）朝食前 5:00～8:00、朝食後 8:00～11:00
7:30の測定で［朝食前］が記録されると、
次の［朝食後］の時間帯は自動的に「7:40～11:00」に変更されます。

①[メニュー] 画面を表示します。
・[キー操作] ■

②[個人設定] → [測定時間帯設定] を選択します。
・[キー操作] ▼➔ ■ ➔ ▼ ➔ ■

③入力方法を選択します。
・[キー操作] ■ ➔ ▲・▼(選択) ➔ ■
[OFF]： 測定時間帯を記録しない
[自動]： 測定時に自動で測定タイミングを記録する
[手動]： 測定後、必要に応じて測定タイミングを記録する

④⑤

例)
朝食後：午前8:00～
午前11:10未満
昼食前：午前11:10～
午後13:00未満

④測定時間帯の開始時間を選択します。
・キー操作 ▼・▲(選択)
・キーを押すたびに、次の時間帯が表示されます。

⑤開始時間を設定します。
・キー操作 ■ ➔ ▼・▲(設定) ➔ ■
・10分単位

⑥他の測定時間帯を変更するには、手順④⑤を繰り返します。

⑦［登録］を選択します。

・[キー操作] ▼・▲

・［登録］が選択されるまで、▼・▲キーを押します。

⑧登録します。

・[キー操作] ■

・「測定時間帯 設定しました。」と表示されます。

低値の表示を設定する FULL

目標値の下限値を設定します。下限値より低い値は「低値」として青色で表示したり、原因を記録したりすることができます。

重要 **目標値の下限値を変更するときは、必ず医療従事者の指示に従ってください。**

①[メニュー] 画面を表示します。
・キー操作 ■

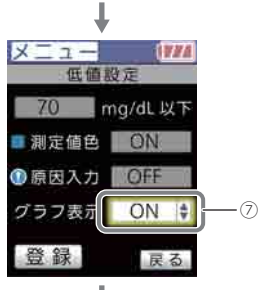
②[個人設定] を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

③[低値] を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④目標値の下限値を設定します。
・キー操作 ■ ➔ ▼・▲(設定) ➔ ■
・範囲：10～100 mg/dL

⑤低値を青色で表示するかどうかを設定します。
・[キー操作] ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■
[ON]： 青色
[OFF]： 白色（目標値と同じ）

⑥低値の場合に原因情報を付加するかどうかを設定します。
・[キー操作] ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■
[ON]： 付加する
[OFF]： 付加しない



⑦グラフ※に目標値の下限値を青色の実線で表示するかどうかを設定します。

・キー操作 ▼➔■➔▼▲(選択)➔■

［ON］： 表示する

［OFF］： 表示しない

※血糖値の平均値を示すグラフ

⑧登録します。

・キー操作 ▼➔■

・「低値 設定しました。」と表示されます。

107 高値の表示を設定する FULL

目標値の上限値を設定します。上限値を超える値は「高値」として赤色で表示したり、原因を記録したりすることができます。

重要 **目標値の上限値を変更するときは、必ず医療従事者の指示に従ってください。**

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

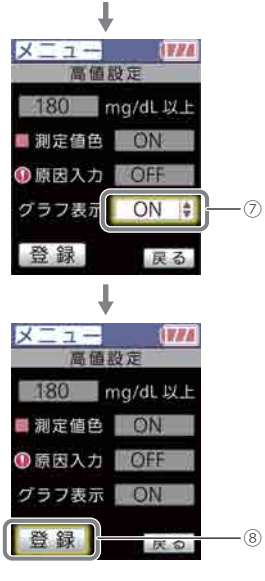
②［個人設定］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

③［高値］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■

④目標値の上限値を設定します。
・キー操作 ■ ➔ ▼▲(設定) ➔ ■
・範囲：120～600 mg/dL

⑤高値を赤色で表示するかどうかを設定します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■
［ON］： 赤色
［OFF］： 白色（目標値と同じ）

⑥高値の場合に原因情報を付加するかどうかを設定します。
・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■
［ON］： 付加する
［OFF］： 付加しない



⑦グラフ※に目標値の上限値を赤色の実線で表示するかどうかを設定します。

・[キー操作] ▼➔■➔▼▲(選択)➔■

[ON]： 表示する

[OFF]： 表示しない

※血糖値の平均値を示すグラフ

⑧登録します。

・[キー操作] ▼➔■

・「高値 設定しました。」と表示されます。

画面の明るさ・ブザー音を設定する FULL

画面の明るさと、ブザー音の種類を設定できます。

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［機器設定］を選択します。
・キー操作 ▼➔ ■

③［画面・ブザー設定］を選択します。
・キー操作 ■

④画面の明るさを設定します。
・キー操作 ■ ➔ ▼・▲(選択) ➔ ■
・［暗い］、［明るい］、［普通］

⑤ブザー音を設定します。

・[キー操作] ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■

・［高音］、［低音］、［OFF］

・選択するたびに、該当のブザー音が鳴ります。

⑥登録します。

・[キー操作] ▼ ➔ ■

・「設定しました」と表示されます。

日付と時刻を設定する CUSTOM FULL

内蔵時計の日付と時刻を設定します。

参考 日付・時刻の自動補正機能

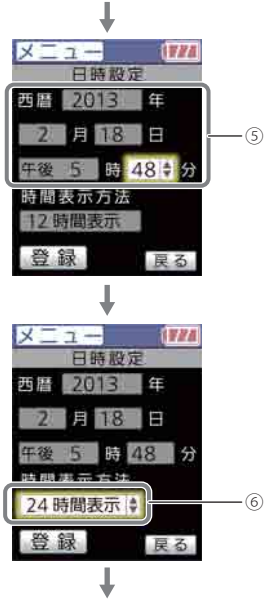
グルコカード　Gブラックの内蔵時計が正しくない場合、パソコンまたはスマートフォンに接続すると、内蔵時計および記憶データの日付と時刻を補正することができます。ただし、パソコンまたはスマートフォンの内蔵時計が正しいか確認してください。また、補正中はグルコカード　Gブラックから電池を取り出さないでください。故障するおそれがあります。

①[メニュー] 画面を表示します。
・[キー操作] ■

②[機器設定] を選択します。
・[キー操作] ▼➔ ■

③[日時設定] を選択します。
・[キー操作] ▼➔ ■

④[西暦] [月] [日] [時] [分] のいずれか変更したい項目を選択します。
・[キー操作] ▼▲(選択) ➔ ■



⑤数字を設定します。

・キー操作 ▼▲(選択) ➔ ■

⑥[時間表示方法] を設定します（必要なとき）。

・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■

・[12時間表示]、[24時間表示]

⑦登録します。

・キー操作 ▼ ➔ ■

・「日付・時刻 設定しました」と表示されます。

Bluetooth通信の設定をする FULL

測定結果のデータをBluetooth対応デバイス※へ送信できるように設定します。

※バージョン4.0以降を搭載したパソコンまたはスマートフォンなどに対応します。あらかじめ専用のソフトウエアをインストールしておいてください。

①［メニュー］画面を表示します。

・キー操作 ■

②［機器設定］→［Bluetooth設定］→［ON・OFF設定］を選択します。

・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼ ➔ ■

③［通信］を設定します。

・キー操作 ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■

・［自動］： 電源を入れると同時にデータを送信
　［手動］： 必要なときに、手動でデータを送信
　［OFF］： 通信をしない

重要 **電波を出さずに使用する場合は、［通信］を［OFF］に設定してください。**

④［測定後自動送信］を設定します。

・［通信］が［自動］または［手動］のときに設定できます。

・キー操作 ▼ ➔ ■ ➔ ▼▲(選択) ➔ ■

・［ON］： 測定後にデータを送信
［OFF］： 測定後にデータを送信しない

重要 **［測定後自動送信］が［ON］の場合、電波の届く範囲にデバイスがないと一定時間電波が出続けるため、電池寿命が短くなります。**

⑤登録します。

・キー操作 ▼ ➔ ■

・「通信（設定値）自動送信（設定値）設定しました。」と表示されます。

重要 **電波を発する電子機器の近くでは、Bluetooth 通信が正常に行われないことがあります。**

参考 ［通信］を［自動］または［手動］に設定した場合は、アイコンが表示されます。

参考 Bluetooth通信をする場合、登録された対応デバイスの電源を入れ、電波の届く場所において使用してください。

Bluetoothのデバイスを登録する FULL

データを送信するBluetooth対応デバイスを登録します。

デバイス登録の前に…

※［機器設定］→［Bluetooth 設定］→［ON・OFF 設定］の［通信］を［自動］または［手動］に設定します。
※デバイスの電源を入れ、電波の届く場所に置きます。

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［機器設定］→［Bluetooth設定］→［デバイスリスト］を選択します。
・キー操作 ▼➔ ■ ➔ ▼ ➔ ■ ➔ ▼ ➔ ■

③デバイスを登録する番号を選択します。
・キー操作 ▼▲（選択）➔ ■
・新規登録するには、［未登録］を選択します。
・登録済みの番号を選択したときは、次に［検索（上書き）］を選択します。

・通信可能なデバイスの検索が開始します。
・お使いのグルコカード　Gブラックのパスワードが表示されます。

・デバイスが見つかると、［デバイスリスト］画面にもどります。

参考「デバイスが見つかりませんでした」と表示されたときは、デバイスの電源がオフまたは通信範囲外の可能性があります。

④デバイスが見つかった場合、デバイス側にグルコカード　Gブラックのパスワードを入力します。
・これで、通信が可能になります。

Bluetoothの電波法の認証を確認する FULL

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［機器設定］を選択します。
・キー操作 ▼➔ ■

③［Bluetooth設定］を選択します。
・キー操作 ▼➔ ■

④［認証表示］を選択します。
・キー操作 ▼➔ ■

・Bluetoothの電波法の認証マークと番号が表示されます。

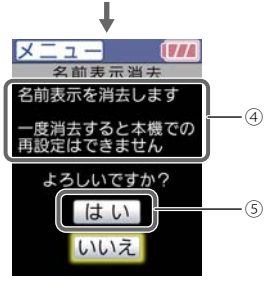
設定を初期化する・記憶データを消去する FULL

設定をすべて初期値にもどします。また、記憶データをすべて削除します。

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［機器設定］→［初期化・消去］を選択します。
・キー操作 ▼➔■➔▼➔■

③初期化・消去したい項目を選択します。
・キー操作 ▼・▲（選択）➔■
［名前表示］：　オープニング画面の使用者の名前を削除
［カスタム画面］：カスタム画面を削除
［全測定データ］：記憶データをすべて消去
［全設定］：　設定をすべて初期化
［全て］：　記憶データを消去し、設定を初期化



例)
［名前表示消去］の場合

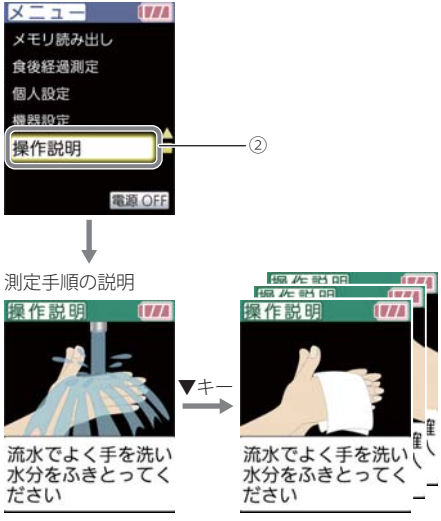
④メッセージを確認します。

⑤［はい］を選択します。
・キー操作 ▲➔■

・初期化または消去が終わると、
「初期化しました」「消去しました」
と表示されます。

操作説明を確認する（メニュー画面から） CUSTOM FULL

血糖値測定の操作説明を画面で確認することができます。



①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［操作説明］を選択します。
・キー操作 ▼ ➔ ■
・操作説明の画面が表示されます。

③次の画面へすすむには、▼キーを押します。
・［END］が表示されたら、説明は終わりです。

参考 ▲：前の画面へ、■：操作説明の説明を終了

参考 Gセンサーを差し込むと、操作説明の説明が終了し、測定ができる状態になります。

Bluetoothでデータを手動で送信する FULL

Bluetooth対応デバイスへ測定結果のデータを手動で送信できます。
※あらかじめデバイスを登録してください（118～119ページ参照）。
※［Bluetooth設定］→［通信］を［手動］に設定しておいてください（116～117ページ参照）。
※デバイスの電源を入れ、電波の届く場所に置いてください。

①［メニュー］画面を表示します。
・キー操作 ■

②［Bluetooth通信］を選択します。
・キー操作 ▼ → ■

・「検索中」のあと、「通信中」と表示され、データが送信されます。
・「通信を終了しました。」と表示されたら完了です。

重要 **電波を発する電子機器の近くでは、Bluetooth 通信が正常に行われないことがあります。**

参考 「デバイスが見つかりませんでした」と表示されたときは、デバイスの電源がオフまたは通信範囲外の可能性があります。操作をやりなおしてください。

電池を交換する

重要 「電池残量が少なくなりました」と表示されたら新しい電池に交換してください。そのまま測定をはじめると途中で電源が切れ、測定結果が得られないことがあります。

電源を入れた後、
2秒間表示されます。

電池切れです。

参考 電池を交換しても記憶データは消去されません。

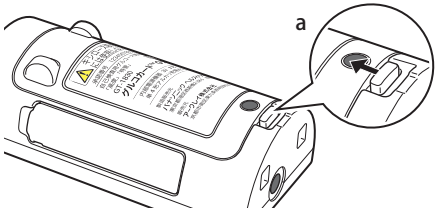
参考 電池の交換は5分以内に完了してください。5分を超えると内蔵時計がリセットされます。なお、以下の場合は5分以内でもリセットされることがあります。

・電池切れの画面が表示された後、すぐに電池を交換しなかった場合
・電池を逆向きに入れ、そのまま5分以上放置した場合

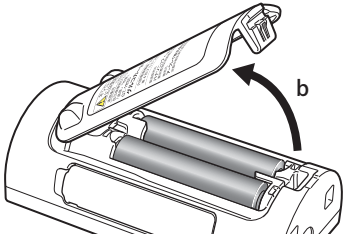
リセットされると、内蔵時計は最終測定日の翌日の0時0分で停止します。電池を交換すると時計は0時0分から動作を開始します。
オープニング画面に「日付・時刻を設定してください」と表示されますので正しい日付・時刻にあわせてください。

参考 日付・時刻の設定は112ページを参照ください。

準備するもの：アルカリ乾電池 単4形（2個）
※コンビニエンスストアまたは電気店でお求めください。
※電池は2個同時に新しいものに交換してください。

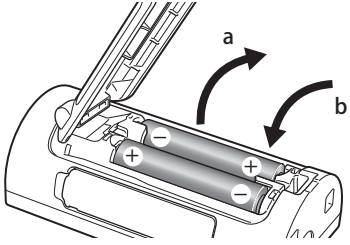


①裏面の電池カバーを開きます。
・ツメを押し（a）、カバーを引き上げると開きます（b）。



注 意

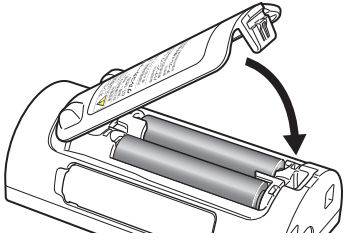
内部の金属部分には手や金属で触れないでください。



①古い電池を取り出し（a）、新しい電池を入れます（b）。

注意

電池は＋側と－側が左図の向きになるように入れてください。



②電池カバーを閉めます。

・カチッと音がすれば、正しくカバーが閉まっています。

警告

電池は乳幼児の手の届かないところに保管または廃棄してください。万一飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。

警告

使用済みの電池を加熱したり、火に投げ入れたりしないでください。破裂してけがを負うおそれがあります。

重要 使用済みの電池は、お住まいの自治体の指示に従って廃棄してください。

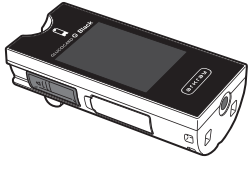
コントロール液を測定する

決められた濃度値のコントロール液を測定することにより、正しい測定結果が得られているかを確認することができます。精度確認は血糖値の測定をするたびに行う必要はありません。以下の場合に行ってください。

●血糖値を測定する前に、グルコカード　Gブラックや Gセンサーの性能を確認したいとき。
●グルコカード　GブラックまたはGセンサーが正常に機能していないと感じるとき。
●測定結果が自覚症状と異なっており、おかしいと感じるとき。
●落下など、グルコカード　Gブラックに強い衝撃を与えたとき。

参考 コントロール液の測定結果は、平均値の計算とグラフ表示には含まれません。

準備するもの



グルコカード　Gブラック

コントロール液

※濃度の違いによりL(低値域)、N(正常域)、H(高値域)の3種類があります。

（ボトル包装）

（アルミパック包装）

Gセンサー

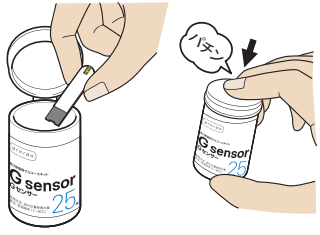
参考 コントロール液はグルコカード　Gブラックに付属していません。販売元にお問い合わせください。

重要 ご使用前に、コントロール液に付属の添付文書をよくお読みください。

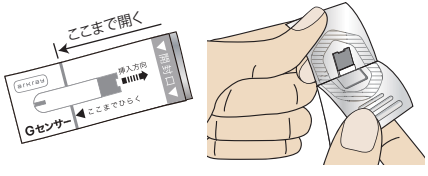
重要 コントロール液は20～30℃の環境で測定してください。

1 Gセンサーを取り出す

【ボトル包装の場合】



【アルミパック包装の場合】



【ボトル包装の場合】

①ボトルのふたを開け、Gセンサーを1枚取り出し、すぐにふたを閉めます。

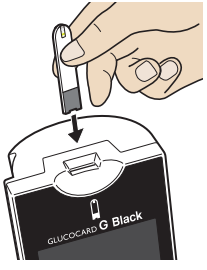
【アルミパック包装の場合】

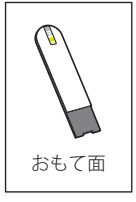
①アルミパックを開け、Gセンサーを取り出します。

重要 Gセンサーをボトルまたはアルミパックから出して長時間放置したり、手で持ったままにしないでください。また、濡れたり汚れたりした手で持たないでください。正しい測定結果が得られません。または、エラーが発生する可能性があります。

重要 ボトル包装の場合、ボトルからGセンサーを取り出したらすぐにふたを閉めてください。湿気に弱いため正しい測定結果が得られなくなります。または、エラーが発生する可能性があります。

2 Gセンサーを差し込む





①Gセンサーのおもて面を手前にして持ちます。

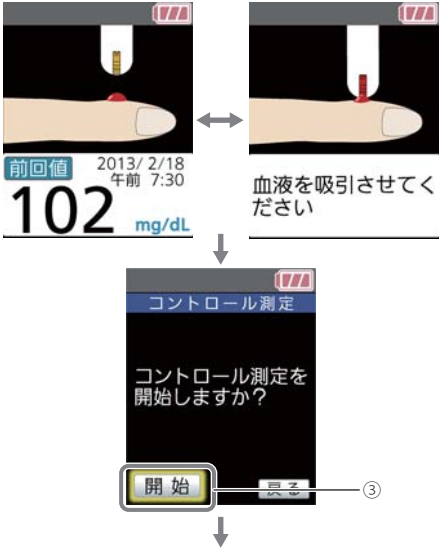
②センサー挿入口の奥までしっかりと差し込みます。

イラストは
月ごとに
変わります。

・「ピッ」と鳴って電源が入り、オープニング画面が表示されます。

重要 **この画面が表示されているあいだは、Gセンサーをコントロール液に接触させないでください。エラーが表示されて測定できません。**

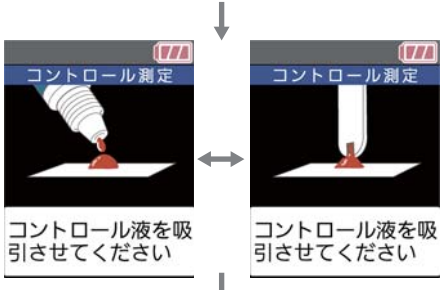
3 コントロール測定モードに切り替える



①左図の画面が交互に表示されるのを確認します。

②▲キーと▼キーを同時に押します。
・左図の画面が表示されます。

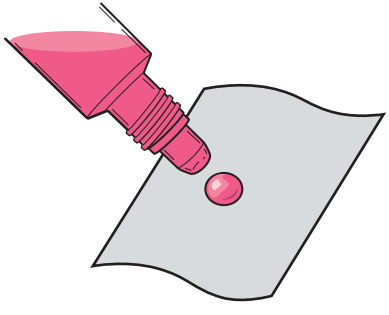
③［開始］を選択します。
・キー操作 ■



④左図の画面が交互に表示されるのを確認します。
・これでコントロール測定モードに切り替わりました。

重要 **必ずコントロール測定モードに切り替えてください。切り替えずにコントロール液を測定すると、正しい測定結果が得られません。**

4 コントロール液を測定する

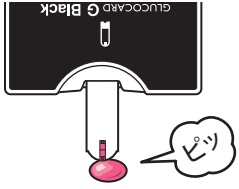


①使用前に成分を均一にするため、コントロール液の容器を2〜3回転倒混和します。

②コントロール液のキャップを開栓します。

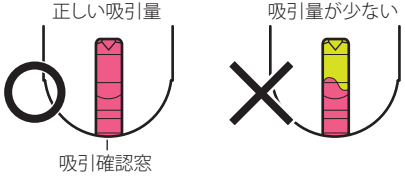
③清潔な食品用アルミ箔や食品用ラップフィルムなどの上に、コントロール液を一滴垂らします。

参考 コントロール液に触れても、感染の危険性など人への害はありません。



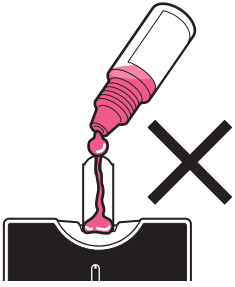
④Gセンサーの先端を下に向けて、グルコカード　Gブラックを持ちます。

⑤Gセンサーの先端にコントロール液を接触させます。



⑥吸引確認窓の全面が赤くなるまで十分に吸引させます。

⑦「ピッ」と鳴ったら、コントロール液からはなします。
・自動的に測定が開始します。



重要 G センサーの先端を上向きにした状態でコントロール液を接触させないでください。センサー挿入口から内部にコントロール液が入り、故障の原因になります。

重要 コントロール液は、必ずふたをしっかりと閉めて保存してください。ふたがゆるんでいると濃度が変化し、正しい測定結果が得られません。

5 測定結果を確認する

コントロール液の測定結果

・再度「ピッ」と鳴り、測定結果が表示されます。

①測定結果が期待値の範囲内であるか確認します。
・期待値はコントロール液の添付文書に記載されています。

範囲内のとき
グルコカード　Gブラックおよび Gセンサーは正常です。

範囲外のとき
グルコカード　GブラックまたはGセンサーのいずれかに異常があります。手順 **6** の後、新しいボトルまたはアルミパックのセンサーを使用してコントロール測定をおこない、測定結果が期待値の範囲内であるか確認してください。
→範囲内のとき： 最初に使用したGセンサーに異常があります。異常のあるセンサーは使用しないでください。
→範囲外のとき： グルコカード　Gブラックに異常があります。販売元にご相談ください。

重要 **コントロール液の測定結果は記録して、精度管理にご利用ください。**

参考 コントロール液の測定結果も自動的に記憶されます。

参考 削除マークをつけるには
■キーを押し、［削除マーク］を選択します。

6 Gセンサーを捨てる

①廃棄レバーをスライドさせ、Gセンサーをはずします。
・電源が切れます。

操作方法に困ったときは

グルコカード　Gブラックのご使用中に「故障かな？」と思ったときや、操作方法に困ったときにお読みください。お読みになっても問題が解決しないときは、販売元にお問い合わせください。

質問1：血液を接触させても測定が開始しないときは？
質問2：測定結果がおかしいと感じるときは？
質問3：Gセンサーを差し込んでも表示が出ないとき、またはすぐに消えてしまうときは？
質問4：『日付・時刻を設定してください』と表示されたときは？
質問5：『電池残量がなくなりました』と表示されたままのときは？
質問6：『測定温度範囲外です』と表示されたままのときは？
質問7：ブザー音が鳴らないときは？
質問8：平均値が測定タイミング毎に表示されないときは？
質問9：食事開始時刻が記憶されないときは？
質問10：アラームが使用できないときは？

質問1：血液を接触させても測定が開始しないときは？

●血液またはコントロール液を一度吸引させたGセンサーを使用していませんか？
●Gセンサーをセンサー挿入口の奥までしっかりと差し込んでいますか？（⇒34ページ参照）
●『血液を吸引させてください』のコメントと前回の測定結果が交互に表示されているあいだに、血液を接触させましたか？（⇒35ページ参照）
●Gセンサーの先端に正しく血液を接触させていますか？（⇒39ページ参照）
●Gセンサーをグルコカード　Gブラックに差し込む前に血液を吸引させていませんか？

質問2：測定結果がおかしいと感じるときは？

●血液またはコントロール液を一度吸引させたGセンサーを使用していませんか？
●Gセンサーの使用期限が過ぎていませんか？
●Gセンサーのボトルを開封してから3ヶ月を経過していませんか？
●Gセンサーのボトルのふたを長時間開けたままにしませんでしたか？
●グルコカード　Gブラックが、使用する場所の温度や湿度に十分なじんでいますか？
●Gセンサーの先端に正しく血液を接触させていますか？（⇒39ページ参照）
●Gセンサーをボトルまたはアルミパックから出して長時間放置したり、手で持ったままにしていませんでしたか？
●Gセンサーをボトルまたはアルミパックから出し、別の容器に保存していませんでしたか？

質問3：Gセンサーを差し込んでも表示が出ないとき、またはすぐに消えてしまうときは？

●Gセンサーをセンサー挿入口の奥までしっかりと差し込んでいますか？（⇒34ページ参照）
●電池は正しく入っていますか？（⇒127ページ参照）
●電池が残り少なくなっています。新しい電池と交換してください（⇒125ページ参照）。

質問4：『日付・時刻を設定してください』と表示されたときは？

●内蔵時計が停止した可能性があります。日付と時刻の設定をやりなおしてください。
⇒EASYモード：FULLモードに切り替え（24ページ参照）、日付と時刻を正しく設定してください（112ページ参照）。その後、再度、EASYモードに切り替えます。
⇒CUSTOMモード、FULLモード：112ページ参照

質問5：『電池残量がなくなりました』と表示されたままのときは？

●電池が残り少なくなりました。すぐに新しい電池（アルカリ乾電池 単4形、2本）と交換してください（⇒125ページ参照）。

質問6：「測定温度範囲外です」と表示されたままのときは？

●グルコカード　Gブラックの機器温度が0～10℃または40～45℃の範囲にあります。この温度範囲での測定は、適正温度での測定と比べて精度が低くなりますので、参考値としてください。

●正しい測定値を得るには、グルコカード　GブラックとGセンサーを温度10～40℃の場所に置き、20～30分以上なじませてから、再度センサーを差し込んでください。電源が入った後、エラー「E-4」および「測定温度範囲外です」が表示されないことを確認してから、血液を接触させてください（⇒39ページ参照）。

●エラー「E-2」が表示された場合は、温度10～40℃の場所にグルコカード　GブラックとGセンサーを置き、20～30分以上なじませてから測定をやりなおしてください。再度「E-2」が表示されるときは、販売元にお問い合わせください。

重要 **「測定温度範囲外です」と表示されたまま測定すると、測定結果に［温度範囲外］アイコンがつきます。この測定結果もグルコカード　Gブラックに記憶されますが、平均値の計算、グラフ表示などには含まれません。**

質問7：ブザー音が鳴らないときは？

●ブザー音が［OFF］に設定されていませんか？［高音］または［低音］に設定してください（⇒110ページ参照）。

質問8：平均値が測定タイミング毎に表示されないときは？

●［測定時間帯設定］で、［入力］が［OFF］に設定されていませんか？［自動］または［手動］に設定してください（⇒100ページ参照）。

質問9：食事開始時刻が記憶されないときは？

●食後経過時間の計測をはじめてから3時間15分以上経過していませんか？ 3時間15分を過ぎると、食後経過時間の計測が解除され、測定結果のみが記憶されます。
●内蔵時計がリセットされていませんか？日付時刻の設定をやりなおしてから食事開始時刻を記憶させてください（⇒112ページ参照）。

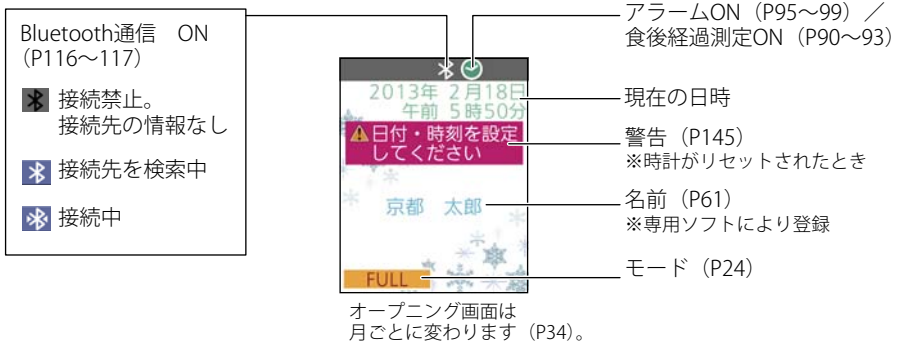
質問10：アラームが使用できないときは？

●内蔵時計が停止した可能性はありませんか？ 日付時刻の設定をやりなおしてからアラームを設定してください（⇒112ページ参照）。
●［アラーム設定］が［OFF］に設定されていませんか？ アラームを使用するには、［ON］に設定して、アラームの時刻を設定してください（⇒95ページ参照）。
●［ブザー］が［OFF］に設定されているとアラームは鳴りません。［高音］または［低音］に設定してください（110ページ参照）。

画面に表示される記号・マーク

画面に表示されるアイコンおよび記号について説明します。詳細は（　）内に示すページをご覧ください。

電源が入った直後



Gセンサーを差し込んだ後

警告（P146）
※測定温度の範囲外のときに表示

電池残量
十分　残量20%　残量5%　電池切れ

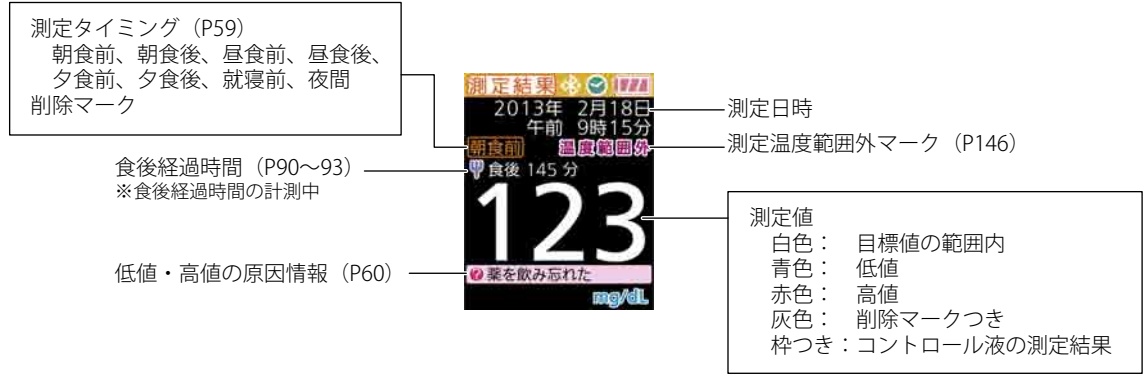
食後経過時間（P90～93）
※食後経過時間の計測中

前回の測定日時

前回の測定値
黒色： 目標値の範囲内
青色： 低値
赤色： 高値
灰色： 削除マークつき

前回の測定タイミング
朝食前、朝食後、昼食前、昼食後、
夕食前、夕食後、就寝前、夜間
削除マーク
測定温度範囲外マーク

測定結果


測定タイミング（P59）
朝食前、朝食後、昼食前、昼食後、
夕食前、夕食後、就寝前、夜間
削除マーク
測定結果
2013年 2月18日
午前 9時15分
朝食前
温度範囲外
食後 145 分
123
薬を飲み忘れた
mg/dL
測定日時
測定温度範囲外マーク（P146）
食後経過時間（P90～93）
※食後経過時間の計測中
低値・高値の原因情報（P60）
測定値
白色： 目標値の範囲内
青色： 低値
赤色： 高値
灰色： 削除マークつき
枠つき：コントロール液の測定結果

記憶データ（過去の測定結果）

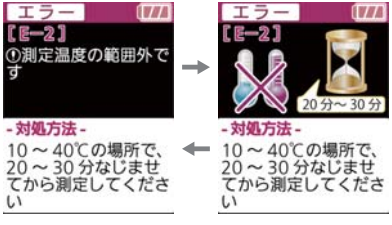
血糖値の
測定結果

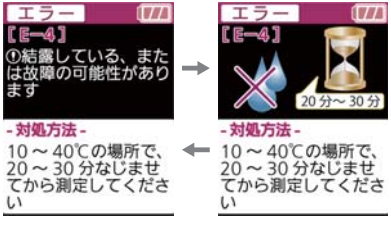
コントロール液の
測定結果

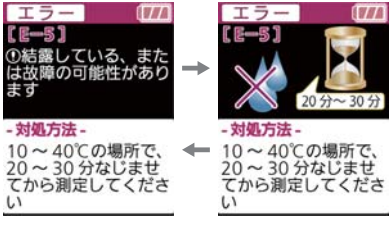
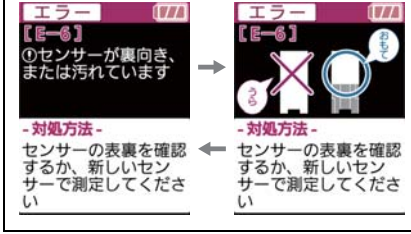
表示の順番/総数

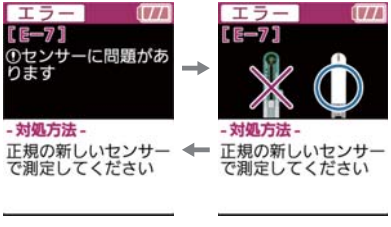
●新しい記憶データから順に表示します。
●450件までの記憶データを記憶できます。
　・血糖値の測定結果
　・コントロール液の測定結果
　・削除マークつきの測定結果
●削除マークがついても、記憶データからは消去されません。

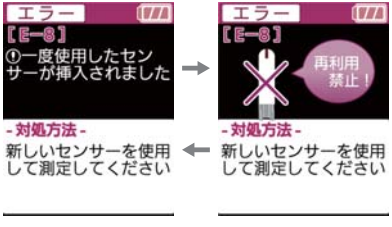
エラー表示の原因と対処方法

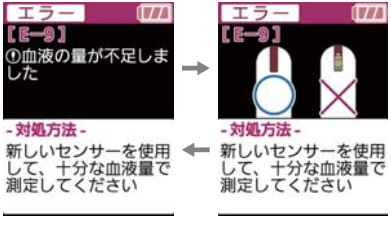
表示	原因	こうしてください
【E―1】 	グルコカード　Gブラックが故障しています。 （マイコン部の異常）	販売元にお問い合わせください。
【E－2】 	測定温度の範囲外です。	温度10～40 ℃の場所にグルコカード　GブラックとGセンサーを置き、20～30分以上なじませてから測定をやりなおしてください。 再度「E-2」が表示されるときは、販売元にお問い合わせください。

表示	原因	こうしてください
【E—3】 	グルコカード　Gブラックが故障しています。 （外部入出力の異常）	販売元にお問い合わせください。
【E－4】 	1. グルコカード　Gブラック内が結露しているおそれがあります。 2. グルコカード　Gブラックが故障しています。 （温度計の異常）	温度10～40℃、湿度20～80%の場所にグルコカード　GブラックとGセンサーを置き、20～30分以上放置してから測定をやりなおしてください。 再度「E-4」が表示されるときは、販売元にお問い合わせください。

表示	原因	こうしてください
【E―5】 	1. グルコカード　Gブラック内が結露しているおそれがあります。 2. グルコカード　Gブラックが故障しています。 （測定部の異常）	温度10～40℃、湿度20～80%の場所にグルコカード　GブラックとGセンサーを置き、20～30分以上放置してから測定をやりなおしてください。 再度「E-5」が表示されるときは、販売元にお問い合わせください。
【E－6】 	1. Gセンサーが裏向きに差し込まれました。 2. Gセンサーの挿入部分（電極）に水やアルコールなどがついて汚れています。	1. Gセンサーの表裏を確認して、正しい向きで差し込んでください。 2.新しいGセンサーを使用して、測定をやりなおしてください。

表示	原因	こうしてください
【E—7】  	1.差し込んだセンサーの種類が正しくありません。 2.Gセンサーの挿入部分（電極）に水やアルコールなどがついて汚れています。	1.正規のGセンサーを差し込んでください。 2.新しいGセンサーで測定をやりなおしてください。

表示	原因	こうしてください
【E－8】  	1.血液またはコントロール液を一度吸引させたGセンサーが差し込まれました。	1.新しいGセンサーで測定をやりなおしてください。
	2.血液をGセンサーに接触させるタイミングが早すぎました。	2.新しいGセンサーを差し込んでください。血液の吸引を促す表示を確認してから、血液を吸引させてください。
	3.コントロール液をGセンサーに接触させるタイミングが早すぎました。	3.新しいGセンサーを差し込んでください。次に「コントロール液を吸引させてください」と表示されるのを確認してから、コントロール液を吸引させてください。

表示	原因	こうしてください
【E—9】  	1.血液が十分に吸引されませんでした。 2.血液がGセンサーの先端ではなく、別の場所に接触しました。	1.新しいGセンサーを差し込んでください。次に、センサーの吸引確認窓の全面が赤くなるまで十分に吸引します。 2.新しいGセンサーを差し込んでください。次に、Gセンサーの先端に血液をつけて吸引させてください。

装置仕様

名称	自己検査用グルコース測定器 グルコカード　Gブラック
型式	GT-1830
測定項目	血液中のグルコース
必要検体量	全血0.6 μL
使用センサー	自己検査用グルコースキット Gセンサー
測定範囲	10〜600 mg/dL
測定時間	点着検知後5.5 秒
温度補正	内蔵温度センサーによる自動補正
外部入出力[*1]	UART通信端子　1個、マイクロUSB（B）コネクタ　1 個、 Bluetooth Low Energy（Bluetooth Ver.4.0）[*2]
電池	1.5V アルカリ乾電池 単4形　2個
電池寿命	約1000回以上　※使用方法により測定可能回数が減ることがあります。
電池寿命表示	電池切れ警告画面の表示
消費電力	0.25 W（最大）

記憶データ数	450測定
時計精度	誤差±80秒/月
使用環境	温度：10～40℃、湿度20～80%（結露しないこと）
保管環境	温度：0～45℃
外形寸法	横41×縦84×高さ26 mm
重量	約75 g（電池を含む）
付属品	取扱説明書（1部）、添付文書（1部）、保証書・保証書登録カード（1部）、個人情報保護シール（1枚）、収納ケース（1個）、アルカリ単4乾電池（2個、装填済）

*1：専用ソフトウェアを使用し、パソコン等でデータ管理ができます。詳しくは販売元にお問い合わせください。
*2：Bluetooth Low Energyの通信距離は5 mです。ただし使用環境により短くなる場合があります。

参考 グルコカード　G ブラックは電池を装填して出荷しておりますので、すぐに測定を開始していただけます。ただし、出荷時に装填された電池はサンプル用のため、記載の電池寿命を保証できません。

参考 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

保証規定

グルコカード　Gブラック（GT-1830）の保証期間は、ご購入後3年間です。保証期間中に故障した場合には、良品と交換いたしますので、必ず保証書を添付してください。ただし、次の場合は保証期間内であっても交換の対象となりません。

1. 使用上の不注意による故障ならびに損傷等
2. 天災・地変等の不測の出来事による故障ならびに損傷
3. 独自の修理・調整・改造等による故障
4. その他、製造販売元の責によらない故障ならびに損傷

重要 **保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。**

MEMO

索引

英字

Bluetooth通信の設定 116
Bluetoothのデータ送信 124
Bluetoothのデバイス登録 118
Bluetoothの認証 120
CUSTOMモード 24
EASYモード 24
FULLモード 24
Gセンサー 28
USBコネクタ 23

あ行

アラーム 95
エラー表示 153

か行

カスタム画面 61
画面の明るさ 110
記憶データ【EASY】 54
記憶データ【FULL】 66
記憶データの消去 121
機能の選択 63
グラフ 83
血糖値の測定 31
血糖値の変動 87
原因情報（測定直後） 60
原因情報の修正 70
高値の記憶データ 75
高値の表示設定 107
項目の設定 64
コントロール液の測定 129

さ行

採血器具 29
採血針 29
削除マーク【EASY】 55
削除マーク【FULL】 67
収納ケース 26
仕様 159
初期化 121
食後経過時間測定 90
食後経過時間測定のグラフ 94
ストラップ穴 23
センサー挿入口 23

操作キー 23
操作説明の確認（センサー差込後） 57
操作説明の確認（電源オフから） 56
操作説明の確認（メニュー画面から） 123
測定 31
測定結果 42
測定時間帯 100
測定タイミング（測定直後） 59
測定タイミングの修正 68

た行
低値の記憶データ 72
低値の表示設定 104
電源を切る 65
電池カバー 23
電池の交換 125

な行
名前の表示 61

は行
廃棄レバー 23
日付と時刻 112
表示部 23
ブザー音 110
平均値の集計データ 81
便利な機能の一覧 49
保証規定 161

ま行
メニューの基本操作 62
メニューの表示 62
モード切替スイッチ 23
目標範囲内の記憶データ 78

製造販売元
パナソニック ヘルスケア株式会社
東京都港区西新橋2-38-5　西新橋MFビル

販売元
アークレイ株式会社
京都市南区東九条西明田町57

・製品のお問合せは

アークレイ コールセンター
フリーダイヤル 0120-81-1955
6:00～22:00（年中無休）

2013年10月改訂　84-04912B